

令和 3 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団決算書

(抜粋)

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 報 告 書	1
・ 決 算 報 告 書	37

事 業 報 告 書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総 括 事 項	3
II 業 務	
1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）	4
2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）	
(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家	4
(2) いわき市暮らしの伝承郷	8
(3) いわき市勿来関文学歴史館	12
(4) いわき市アンモナイトセンター	16
(5) いわき市考古資料館	18
(6) 福島県いわき海浜自然の家	21
(7) いわき市生涯学習プラザ	23
3 管 理 部 門（法人会計）	32
III 評議員会・理事会に関する事項	
1 評 議 員 会	33
2 理 事 会	33
3 監 査	33
4 役員等に関する事項	34
IV 職員に関する事項	
1 事 務 局	35
2 施 設	35

I 概 況

1 総括事項

令和3年度は、本事業団の設立から44年目、公益法人に移行後8年目にあたる。公益法人としての役割を認識し、専門性を活かすとともに、これまで同様、新型コロナウイルス（以下、「新型コロナ」という。）感染症の感染拡大防止に十分、意を用いながら、職員一丸となって市・県民の心の支えとなるように事業を展開した。

理事会は10回、評議員会は4回開催し、財務に関しては収支相償に留意しながら、公正・公平で透明性のある事業運営に努めた。

文化財部門は、JRいわき駅周辺の再開発事業よる平城跡内での発掘調査や試掘・確認調査が多く実施され、内堀跡や外堀跡などの貴重な成果が得られた。また、市道改良や保育園新設に伴う発掘調査が3件実施され、縄文時代や奈良～平安時代、江戸時代の成果も多い一年であった。事業量は、前年度から2件増の14件、収入額は約1億5,500万円で、約1,450万円の減となった。

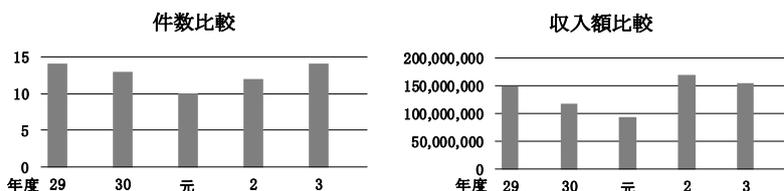
施設部門は、大部分の施設が5か年の指定管理期間の中間年となり、魅力ある企画展や体験学習などの事業を展開したものの、新型コロナ感染症の感染拡大防止を図るため、施設の利用停止や事業の延期、中止を行ったことから、全施設の年間利用者は前年度比68.3%となった。施設休館中は、利用者に事業の延期、中止などを丁寧に周知するとともに、再開館に向けた様々な準備業務を行いながら、新型コロナ感染症収束後の効果的な施設運営についても検討した。

法人運営としては、コロナ禍の中、施設長会議や安全衛生委員会などの諸会議をオンラインにより実施したほか、一部施設では在宅勤務を実施するなど、試行錯誤をしながら施設の運営にあたった。

本年度の収入は全体で約6億2,690万円となり、経費の節減に努めた結果、約1,840万円の黒字決算となった。

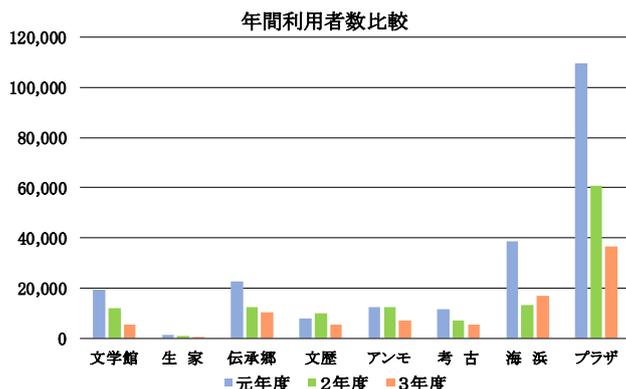
○ 発掘調査事業契約件数と収入額の年度別比較（平成29年度～令和3年度）

年度	29	30	元	2	3
契約件数 (単位：件)	14	13	10	12	14
収入額 (単位：円)	148,185,720	116,742,600	93,946,360	169,944,500	155,347,500



○ 施設年間利用者数比較（令和元年度～令和3年度）

	文学館	生家	伝承郷	文歴	アンモ	考古	海浜	プラザ	合計
元年度	19,247	1,116	22,565	8,016	12,226	11,723	38,808	109,705	223,406
2年度	12,084	915	12,202	10,005	12,242	6,881	13,137	60,768	128,234
3年度	5,461	607	10,420	5,227	7,053	5,394	17,062	36,406	87,630



Ⅱ 業 務

1 文 化 財 部 門 (公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

令和3年度に受託した事業は14件である。内訳は、いわき市内が11件（発掘調査4件、市内試掘調査1件、14遺跡、範囲確認調査1件、資料整理及び報告書作成・刊行4件、文献調査1件）、市外が3件（発掘調査1件：本宮市、資料整理・報告書作成2件：本宮市、石川町）である。

屋外での作業となる発掘調査では、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を十分に講じつつ、安全を第一に心掛けて作業にあたった。

主な調査成果は、平城跡（田町地区）の発掘調査においては、内堀跡が検出されたことが特筆される。併せて、多量の陶磁器・瓦・木製品が出土している。さらに、近代の石積遺構が検出され、旧平市街地の土地利用も確認された。

梅ノ作瓦窯跡群（小川町下小川）の範囲確認調査では、7世紀後半の須恵器窯跡を確認し、杯・高台付杯・甕・円面硯などが出土した。

市外の調査においては、本宮市大学館跡（本宮市高木）では、昨年度から引き続き中世館跡を調査し、数条の堀跡や柱穴が検出された。また、出土した遺物について、整理作業を実施した。石川町殿畑遺跡（石川郡石川町沢井）は、出土遺物の整理等作業の委託で、土師器等の実測・トレース作業を実施した。

磐城平城跡文献等調査は最終年度となり、城の歴史、縄張と建築物、発掘調査の概要及び城絵図・地図と主要文献の集成を含めた報告書を編集・刊行した。報告書については、磐城平城文献等調査報告書及び発掘調査報告書2冊の計3冊を刊行した。

また、埋蔵文化財啓発活動として、第1回企画展「令和2年度発掘速報展」をいわき市考古資料館と共催で開催した。

2 施 設 部 門 (公2 教育文化施設の管理運営事業)

(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家

文学館 いわき市小川町高萩字下夕道1番地の39 平成10年7月19日開館
生 家 いわき市小川町上小川字植ノ内6番地の1 平成15年4月10日開館
委託者及び指定管理期間 いわき市 平成31年4月1日～令和6年3月31日

いわき市立草野心平記念文学館の年間入館者は5,461名、昨年度比6,623名の減、年間開館日数は233日間であった。入館者減少について、春の企画展の会期は62日間から34日間、多くの入館者が見込まれる夏の企画展の会期は50日間から18日間と大幅に減少した影響と考えられる。また、催し物を中止したことや、各種催し物の定員を平時の半数以下としたことなども要因としてあげられる。

いわき市草野心平生家の年間入館者は607名、昨年度比308名の減、年間開館日数は233日であった。通常の開館時はボランティアの会員が心平と故郷のかかわりを解説しつつ、親しみやすく来館者に接している。

文学館、心平生家ともに、催事の大半を事前申し込みとし、平時の半数以下の定員として、催事毎に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に留意し、利用者へ可能な限り配慮しながら事業を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」に基づき4月29日(木)～5月31日(月)、福島県の「まん延防止等重点措置」等に基づき8月7日(土)～9月30日(木)は臨時休館とした。また、6月1日(火)～同20日(日)のいわき市の「感染拡大防止一斉行動(リバウンド防止期間)」、10月1日(金)～同10日(日)のいわき市の「リバウンド防止期間(ステージⅢ)」、そして1月24日(月)～3月31日(木)のいわき市の「まん延防止等重点措置」適用、「感染拡大防止一斉行動」及び「感染拡大防止のための集中対策期間」に基づき、事業実施について適宜、検討、対応した。本報告で事業を延期または中止、縮小しているのは、以上のことが理由である。

ア 企画展

令和3年度は、春、夏、秋と3回の企画展を開催した。

春の企画展「草野心平のオノマトペ 生きてゆく擬音」は、草野心平の詩の特徴の一つであるオノマトペについて、特徴的な例を取り上げ、心平が評論「生きてゆく擬音」のなかで言及したテーマに沿って分類し、紹介した。夏の企画展「中原淳一展 美しく装うことの大切さ」は、戦後、生活

に困窮する日本の少女や女性たちに向けて、毎日の生活に「華」をもたらす実践的、具体的な提案を発信した中原淳一のスタイル画や表紙画、挿絵を展覧した。秋の企画展「新収蔵品展」は、平成23年度以降に収蔵した資料を中心に、草野心平の自筆原稿や戦前の掲載誌、草野心平研究者として知られる故・深澤忠孝氏の研究資料などを紹介した。

スポット展示は、「猪狩満直」・「草野心平のスケッチ」・「吉野せい」・「草野天平」を開催し、心平の創作活動の一面やいわきゆかりの文学者、資料、交友を紹介した。

(ア) 春の企画展「草野心平のオノマトペ 生きてゆく擬音」

会 期 4月17日(土)～6月27日(日)

観 覧 者 783人

内 容 特徴的なオノマトペ(擬音語)を用いたことでも知られる草野心平の作品の中から、特に印象的なオノマトペを用いた詩篇を選び、心平の擬音語に対する考え方とあわせて紹介した。

関連事業

a ギャラリートーク

日 時 6月5日(土)を6月26日(土)14時～14時30分に延期 5月8日(土)は中止

聴講者 23人

b タイアップ企画 オンラインゲーム「文豪とアルケミスト」

期 間 4月17日(土)～6月27日(日)

内 容 同ゲーム内に登場する草野心平の等身大パネルをアトリウムロビーに展示した。

(イ) 夏の企画展「中原淳一展 一美しく装うことの大切さ」

会 期 7月17日(土)～9月12日(日)

観 覧 者 946人

内 容 ファッションデザイナー、イラストレーター、編集者など、幅広い分野で活躍した中原淳一(1913～1983)が訴えつづけた内面を含めた美しさについて、中原が描いたスタイル画、挿絵の原画などで紹介した。

関連事業

a 記念ギャラリートーク「今につながる中原淳一の仕事」

日 時 7月17日(土)14時～15時

聴講者 37人

内 容 中原利加子氏(本展監修者・ひまわりや代表)が展示内容を解説した。

b ギャラリートーク

日 時 9月4日(土)14時～14時30分 中止

(ウ) 秋の企画展「新収蔵品展」

会 期 10月9日(土)～12月19日(日)

観 覧 者 2,288人

内 容 平成23年度以降に収蔵した資料を中心に、草野心平の自筆原稿や戦前・戦中の作品掲載誌、書籍、草野心平研究者の故・深澤忠孝氏の研究資料や写真資料などを展示。心平の作品世界や人となりを紹介した。

関連事業

ギャラリートーク

日 時 10月9日(土)、11月13日(土)いずれも14時～14時30分

聴講者 計16人

(エ) スポット展示「猪狩満直」

会 期 4月3日(土)～6月27日(日)

内 容 いわき市好間町川中子出身の詩人猪狩満直(1898～1938)の詩集と参加した謄写版印刷の詩誌、宮澤賢治の遺言により贈られた『国訳妙法蓮華経』等で、生涯と作品、交友を紹介した。

(オ) スポット展示「草野心平のスケッチ」

会 期 7月3日(土)～9月26日(日)

内 容 富士山、海老、雲、旅籠行灯など草野心平のスケッチ13点を展示し、詩や随筆にとどまらない心平の多彩な創作活動の一端を紹介した。

(カ) スポット展示「吉野せい」

会 期 10月2日(土)～12月19日(日)

内 容 いわき市小名浜出身で好間町の通称菊竹山で暮らした作家吉野せい(1899～1977)の作品「梨花」に関する日記、自筆原稿等で、作家の創作への想いを紹介した。

(キ) スポット展示「草野天平」

会 期 1月2日(日)～3月27日(日)

内 容 いわきゆかりの詩人草野天平の生涯と作品を、兄の心平とのかかわりにもふれながら紹介した。

イ 講演会、文学散歩など

文芸講演会「未来から来た詩人、草野心平」は、作家でありながら詩の賞の選考委員も務める高橋源一郎氏ならではの視点での講演で、文学への興味関心を高める機会を提供した。文学散歩「草野心平が歩いた平町」は、当時の詩人たちの活動場所を知ること、いわきの詩風土を理解する機会を提供した。ガリ版ワークショップでは、心平がガリ版で詩集を作ったことにちなみ、かつての印刷機材、技術にふれる機会とした。また、参加者作品紹介は、ガリ版で印刷した年賀状など、ワークショップの作品で年始の来館者を迎えるとともに、当館の多彩な事業内容の一端を紹介する機会とした。

ア) 文芸講演会「未来から来た詩人、草野心平」

日 時 11月28日(日)14時～15時30分

聴講者 128人

内 容 作家の高橋源一郎氏が、ポエジー（詩）とヴォイス（声）、詩人と小説家の相違点や草野心平の特異性について講演した。

イ) 文学散歩「草野心平が歩いた平町」

日 時 6月6日(日)を11月7日(日)9時30分～12時に延期

参加者 14人

内 容 大正から昭和初期の文芸運動や草野心平ゆかりの場所のほか、天田愚庵邸などを徒歩でめぐった。

ウ) ガリ版ワークショップ

日 時 12月4日(土)13時30分～15時

参加者 12人

内 容 心平が謄写版印刷機（ガリ版）で詩集を作ったことにちなみ、オリジナルのカードを作り、かつての印刷機材、技術にふれる機会とした。

エ) 「ガリ版ワークショップ」参加者作品紹介

会 期 1月2日(日)～同10日(月)

内 容 12月に開催したワークショップの作品を紹介し、年賀状などで年始の来館者を迎えた。

ウ 演奏会など

夜間開館時や週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。サマーナイトの催しは、午後8時まで開館する7月・8月の土曜日の夕刻から、アトリウムロビーにて演奏会を開催し、多彩な芸術活動にふれる機会を提供した。クリスマスえほんコンサートは、絵本を読み聞かせるおはなし会を開催し、子どもたちが絵本などに接することで、物語の楽しさに親しむきっかけになることを目指した。

ア) いわき濤笛会山口流篠笛コンサート

日 時 5月5日(水)13時～14時 中止

イ) サマーナイトの催し

a コンサート「コントラバスギターで綴る『音の原風景』」

日 時 7月3日(土)18時～19時

鑑賞者 37人

b コンサート「語るシャンソン」

日 時 8月7日(土)18時～19時 中止

c 朗読会「少女・女性たちに夢と希望を与えた雑誌『ひまわり』『それいゆ』 中原淳一の世界」

日 時 8月21日(土)17時～18時30分 中止

d コンサート「デュオジャズナイト」

日 時 8月28日(土)18時～19時 中止

ウ) クリスマスえほんコンサート

日 時 12月19日(日)14時～15時

鑑賞者 37人

内 容 絵本の読み聞かせと演奏会にあわせ、文学館ボランティアの会会員が扮するサンタクロースがお菓子をプレゼントするなど、親子連れが多数参加し、楽しんだ。

エ 市内文化施設、地域住民との連携

移動水族館は、親子連れや子どもたちが気軽に水辺の生き物にふれることができる機会とした。また、文学館周辺の団体と連携することによって、地域の活性化を図る機会とした。

ア) おでかけアリオス（主催 いわき芸術文化交流館アリオス）

日 時 5月3日(月)14時～15時 中止

イ) 移動水族館（協力 アクアマリンふくしま）

日 時 8月29日(日)を10月31日(日)10時～15時に延期

参加者 164人

内 容 親子連れや子どもたちが海辺の生き物に親しんだ。開催に合わせ、ゆうゆうファームと小川の郷かあちゃんのじまん市が小川町の農産物を販売した。

(ウ) 第44回吉野せい賞表彰式・記念講演会（主催 吉野せい賞運営委員会）

日 時 11月6日(土)13時45分～15時15分

聴講者 70人

内 容 いわき市出身の俳優、歌手、詩人の秋吉久美子氏が、いわき市在住の詩人齋藤貢氏と対談した。

オ 文学館ボランティアの会事業

朗読サロンは、朗読に気軽に接し、かつ楽しく学べる講座を通して、文学や表現の魅力にふれる機会とした。文学館ボランティアの会会員が講師を務め、市民ボランティアの活用にもつながっている。文学散歩は、いわき市勿来の関公園に散在する歌碑をめぐり、勿来関ゆかりの文人にふれる機会を提供した。

(ア) 朗読サロン

日 時 4月10日(土)、7月3日(土)、10月2日(土)、11月13日(土)、12月11日(土)、1月15日(土) いずれも午前11時～12時 原則として毎月第1土曜日

5月8日(土)、6月5日(土)、8月7日(土)、9月4日(土)、2月5日(土)、3月5日(土)は中止

受講者 計41人

(イ) 文学散歩「勿来関の歌碑を訪ねて」

日 時 12月5日(日)10時～12時

参加者 20人

内 容 いわき市勿来の関公園に散在する歌碑をめぐり、いわき市勿来関文学歴史館を見学し、いわき市で活躍した文人を紹介した。

(ウ) 居酒屋「火の車」一日開店

日 時 3月13日(日) 中止

内 容 居酒屋「火の車」の当時の模様を心平の随筆などで紹介し、心平が命名したお品書きにちなんだお土産を提供する。

カ 出前講座

市内の文学者について、理解を深める機会となった。また、いわき市生涯学習プラザ主催事業の講師を務め、いわき市教育文化事業団受託施設間の連携を深めた。

(ア) ライフプランニング講座「いわきゆかりの文学～図書館資料を活用して～」

a 第1回「いわきゆかりの詩人」（会場 いわき市生涯学習プラザ）

日 時 11月5日(金)18時30分～20時30分

受講者 15人

内 容 いわきゆかりの詩人の中から、特に有名な野口雨情、山村暮鳥、草野心平を挙げ、それぞれの人生といわきとの関わりを概説した。

b 第5回「いわき市平の文学探訪―バーチャルで街を巡る―」

日 時 12月3日(金)18時30分～20時30分

受講者 14人

内 容 大正～昭和初期に発行された詩誌と詩人たちを紹介し、総合図書館で所蔵する地図を活用して、関連場所をバーチャルで巡った。

キ 草野心平生家の催し

カエルのクラフトワークショップは、地域住民や親子連れの参加者が見られ、郷土の詩人に思いを寄せ、市民交流の場を提供する機会とした。没後34回忌「心平忌」・第27回「心平を語る会」は、草野心平生家ボランティアの会と連携しながら、郷土の詩人を偲ぶひと時を参加者と共有した。

(ア) 心平誕生月の記念朗読会

日 時 5月7日(金)14時～15時 中止

(イ) カエルのクラフトワークショップ

日 時 7月24日(土) 14時～15時

参加者 11人

内 容 草野心平が蛙を主題とした詩を多く作ったことにちなみ、カエルの顔の風鈴を作るワークショップを実施した。

(ウ) 子どもじゃんがら

日 時 8月14日(土)11時～11時20分 中止

(エ) 没後34回忌「心平忌」・第27回「心平を語る会」

- a 墓参（会場 常慶寺）
日 時 11月14日(日)12時30分～13時30分
参加者 5人
- b 心平が好んだ音楽にちなんだ演奏（会場 文学館）
日 時 11月14日(日)14時～15時
鑑賞者 28人
内 容 いずれも心平の命日（11月12日）にちなみ、「いわき市草野心平生家ボランティアの会」と連携しながら、郷土の詩人を偲ぶ催しを開催した。

- (オ) 草野天平の集い
日 時 2月27日(日)13時30分～15時 中止
内 容 草野天平の誕生月にちなみ、彼が幼少期などを過ごした心平生家で、代表作品の朗読とゆかりの音楽を演奏する。

ク 事業懇談会の開催について

- (ア) 第1回事業懇談会
日 時 7月31日(土)10時30分～11時30分
出席委員 8人
議 題 報告第1号 令和2年度いわき市草野心平記念館の実施事業について
報告第2号 令和3年度いわき市草野心平記念館の事業について
その他事項
- (イ) 第2回事業懇談会
月 日 3月23日(水)（書面開催）
議 題 報告第1号 令和3年度いわき市草野心平記念館の実施事業について
報告第2号 令和4年度いわき市草野心平記念館の実施計画について
その他事項

(2) いわき市暮らしの伝承郷

いわき市鹿島町下矢田字散野14番地の16 平成11年7月18日開館
委託者及び指定管理期間 いわき市 平成31年4月1日～令和6年3月31日

令和3年度の入園者数は10,420人で、前年度比1,782人の減であった。

伝承郷の中心事業である景観復元・伝承・管理作業は、「昔の暮らしの景観復元と伝承」をコンセプトにし、令和3年度も畑作・里山作りのほか、干し柿作りなど古民家の生活復元展示を実施した。畑作については、栽培する野菜や道具等も、景観復元展示の一環と位置付け、極力昔の方法・道具を取り入れながら行った。

常設展示事業では、見学資料として、ワークシート「ワクワク探検in伝承郷」を通年で配布した。

そのほか、ボランティア育成、資料収集・整理作業、民俗調査・レファレンスなどを通年で実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」に基づき4月29日(木)～5月31日(月)、福島県の「まん延防止等重点措置」等に基づき8月7日(土)～9月30日(木)は臨時休園とした。また、6月1日(火)～同20日(日)のいわき市の「感染拡大防止一斉行動(リバウンド防止期間)」、10月1日(金)～同10日(日)のいわき市の「リバウンド防止期間(ステージⅢ)」、そして1月24日(月)～3月31日(木)のいわき市の「まん延防止等重点措置」適用、「感染拡大防止一斉行動」及び「感染拡大防止のための集中対策期間」に基づき、事業実施について適宜、検討、対応した。本報告で事業を延期または中止、縮小しているのは、以上のことが理由である。

ア 企画展

第1回企画展「古民家模型展パート5―大内宿―」は、新聞3紙に記事が掲載されたことで、会期中は市内外からの来園者が多く訪れ、会場は毎日賑わいを見せていた。観覧者からは、「素晴らしい」、「感動した」、「温かみのある展示だった」などといった好意的な意見や、「大内宿に行きたくなくなった」という声もあり、大内宿や古民家そのものへの興味・関心を高める良い機会になった。

第2回企画展「いわき地方の道標」は、会期中に題材として取り上げた三和地区の児童たちも遠足で訪れ、地元地域に所在する石碑や石仏の歴史や意味について触れる機会を提供できた。観覧者からは「地域の信仰や歴史について分かった。」などと好評を得た。

ロビー展では、年中行事に合わせた民具の展示やいわきの民俗学研究的礎を築いた先人の展示、さらには体験教室の作品などを展示した。

ア) 第1回企画展「古民家模型展パート5―大内宿―」

会 期 4月24日(土)～6月28日(月)

入 館 者 1,512人

内 容 菅野清八氏(市内在住)が制作した大内宿の模型48棟(民家45棟、社寺3棟)を実際の街並み同様に展示した。

関連事業

展示解説 日時 5月1日(土)、5月29日(土)13時30分～14時30分 中止

イ) 第2回企画展「いわき地方の道標」

会 期 11月6日(土)～1月16日(日)

入 館 者 3,004人

内 容 いわき市内にある石碑や石塔と、そこに刻まれた道標などについて、三和地区のものを中心に拓本や写真、古地図により展示した。

関連事業

展示解説 日時 11月10日(水)、同25日(木)、12月4日(土)、同12日(日) いずれも13時30分～14時30分 聴

講者 計66人

ウ) ロビー展

a 端午の節句飾り展 会期 6月2日(水)～6月13日(日)

内 容 「鍾馗」の特大絵幟をはじめ、絵幟6点、鯉幟2点、節句飾り7点を展示した。

b 七夕飾り展 会期 7月7日(水)～8月8日(日)

内 容 笹竹に藁馬(七夕馬)を飾り、来館者に短冊に願い事を書いてもらった。また、七夕の歴史及びいわき市や全国各地の七夕行事についてパネルで紹介した。

c 山口弥一郎展 会期 10月1日(金)～10月31日(日)

内 容 いわき市の民俗研究の礎を築いた民俗学者の一人である山口弥一郎の経歴や研究内容等についてパネルで紹介した。

d 消しゴムはんこで「春」展 会期 1月20日(水)～2月17日(木)

内 容 「消しゴムはんこ彫り・ちぎり絵教室」の参加者による作品展を行った。

e おひなさま展 会期 2月20日(日)～4月10日(日)

内 容 大正時代初期から昭和時代中期にかけての雛人形7組、及び関連資料を展示した。

f 龍門寺楼門模型展 会期 3月2日(水)～3月31日(木)

内 容 菅野清八氏(市内在住)が制作した龍門寺楼門の模型を展示したほか、龍門寺についてパネルで紹介した。

イ 講演会

ア) 伝承郷講座「神がよみがえる海～浜通りのお浜下り～」

日 時 9月11日(土)を令和4年2月13日(日)13時30分～15時に延期したが、中止

イ) 山口弥一郎がいわきに残したもの―磐城高等女学校と磐城民俗研究会―

日 時 10月3日(日) 13時30分～15時

受講者 21人

内 容 福島県立博物館学芸員の内山大介氏が、山口弥一郎がいわき市で行った研究やその内容、いわき市の民俗学の始まりなどについて講演した。

ウ) 館長講座

日 時 7月4日(日)、同18日(日)、10月2日(土)、同9日(土)、11月14日(日)、同21日(日)13時30分～15時 2月6日(日)、同20日(日)は中止

受講者 計128人

内 容 館長が講師となり、いわきの歴史や民俗、文学などをテーマにした講座。昨年度から引き続き、いわき市に根差した内容で、「長久保赤水・いわきの旅―『東奥紀行』と「遊関伽井嶽観龍燈記」―」、「新島襄が見た1864年のいわき―『函楯日記』を読む―」、「万延元(1860)年3月の片寄平蔵の旅」を表題として講演し、好評を得た。

ウ 体験事業

体験学習会(主催)では、「民話の語り」「伝承郷で見つける自由研究」や「正月飾り作り」など、季節に合わせた内容で17回実施した。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため各体験学習に定員を設け、事前申込制として実施した。定番化し好評を得ているものに加え、新規のプログラムを取り入れるなどし、幅広い年齢層が参加できるよう取り組んだ。

学社連携事業では、小学校と連携し、年中行事や昔の生活体験などを実施した。昔の風習・生活について理解を深めてもらう良い機会となった。

また、様々な団体の要望で、体験学習・講座などを共同で開催した。好評を得ており、新たな来園者層を開拓する機会となった。今後も各種団体との連携を図っていく。

ア) 体験学習会

- a けん玉道場 日時 5月5日(水)10時～12時 中止
- b 民話の語り 日時 6月12日(土)、10月23日(土)、11月6日(土)、1月8日(土)13時30分～14時30分 5月8日(土)、8月7日(土)、9月4日(土)、3月12日(土) 中止 参加者 計74人
- c ベビーおじょんこ作り 日時 5月15日(土)、同22日(土)、同29日(土)を1月15日(土)、同22日(土)、同29日(土)いずれも9時～12時に延期 受講者 計39人
- d ヤマブドウの携帯ケース作り 日時 6月20日(日)10時～15時 参加者 7人
- e 銀ちゃんの昔語り 日時 4月10日(土)、7月10日(土)10時～11時 参加者 19人
- f 伝承郷で見つける自由研究 日時 7月25日(日)、8月1日(日)いずれも10時～15時 参加者 計24人
- g 竹編みの鍋敷き作り 日時 11月14日(日)9時30分～12時 参加者 2人
- h 押し花カレンダー作り 日時 11月20日(土)9時30分～12時 参加者 6人
- i 正月飾り(神棚用) 日時 12月11日(土)9時～12時 参加者 6人
- j 正月飾り(玄関用) 日時 12月18日(土)9時30分～12時 参加者 14人
- k 百人一首 日時 1月3日(月)13時30分～15時 参加者 7人
- l ひな人形作り 日時 2月13日(日)10時～12時 中止
- m 布ぞうり作り 日時 2月19日(土)、同20日(日)いずれも9時30分～12時を5月21日(土)、同28日(土)に延期

(イ) 学社連携

- a いわき市立中央台南小学校(脱穀体験) 日時 10月20日(水)9時30分～12時 参加者 30人
- b いわき市立泉北小学校(石臼体験) 日時 10月22日(金)9時～11時 参加者 102人

(ウ) 共催事業

- a 里山の暮らし体験(市民団体・ふるりの気) 日時 4月18日(日)、6月20日(日)、11月21日(日)、12月19日(日)いずれも9時30分～14時 1、2、3月は中止 参加者 計112人
- b 木よう体験教室(工房光・萩原光明氏) 日時 4月1日(木)～1月20日(木) 毎週木曜日10時～15時 28回 4月29日(木)、1月27日(木)、2、3月は中止 参加者 計241人
- c フラワーアレンジメント教室(落合陽子氏) 日時 4月23日(金)～12月17日(金) 第4金曜日10時30分～15時30分 6回 1、2、3月は中止 参加者 計40人
- d 貯筋体操&レク・スポーツ(いわきFスポーツクラブ) 日時 7月7日(水)～1月19日(水) 毎週水曜日13時30分～15時30分 19回 9月、10月、1月26日(水)、2、3月は中止 参加者 計123人
- e 朗読会「中原淳一の世界」(朗読サロン「ミモザ」) 日時 11月27日(土)13時～14時 参加者 22人

(エ) 演奏会

学習管理棟休憩コーナーを会場に、季節にちなんだ曲目をハーモニカ、ギター、箏、尺八や篠笛などで演奏する演奏会を開催した。本年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため定員を設け、事前申込制とした。いずれの演奏会も演奏団体や楽器が周知され、伝承郷での演奏会を心待ちにする聴衆もいるなど、好評を得ている。

- a ハーモニカ演奏会(泉ハーモニカクラブひばり) 日時 6月5日(土)、10月2日(土) 10時30分～11時30分 3月5日(土) 中止 鑑賞者 計20人
- b セタコンサート(箏アンサンブル雷神) 日時 7月11日(日) 14時～15時 鑑賞者 23人
- c コン・アモーレギターコンサート(コン・アモーレ) 日時 10月16日(土) 14時～15時 鑑賞者 20人
- d 後ノ月篠笛演奏会(いわき濤笛会) 日時 10月31日(日) 14時～15時 鑑賞者 24人
- e 新春箏コンサート(筑紫野会) 日時 1月9日(日)14時～15時 鑑賞者 21人
- f 桃の節句篠笛演奏会(いわき濤笛会) 日時 2月27日(日)14時～15時を4月10日(日)14時～15時に延期 中止

エ キッズ民話語り部

小中学生を対象とした、民話を語り継ぐ子どもたちの語り部養成講座。民話語りの伝承だけでなく、観客の前での発表を通して、自信と自己肯定感を養う場としても高い評価を得た。発表会では、どの語り部も日ごろの練習の成果を大いに発揮できた。

(ア) キッズ民話語り部教室

- 日時 6月12日(土)、7月10日(土)、10月9日(土)、10月30日(土)、11月13日(土) 10時～12時

受講者 小学生6人

(イ) 第28回キッズ民話語りの会(発表会)

日時 10月17日(日)を12月19日(日)13時30分～15時に延期 鑑賞者 31人

オ キッズミュージアムin伝承郷

園内全域を会場とし、「消しゴム版画でエコバッグ」「麦わらのコースター作り」などの体験学習や、「輪投げ」「ゴム鉄砲射的」「フラフープ」などの昔遊び体験を実施した。夏休み期間中のイベント中止が相次ぐ中、外出できない子供たちの遊びの場、学びの場を提供する貴重な機会となった。

日時 7月17日(土)10時～12時 9月18日(土)は中止 参加者 111人

カ 伝統芸能実演

市内に残る伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」「三匹獅子舞」の実演は、毎年恒例となっており、伝統芸能の発表の場や継承の機会となっている。

本年は「平窪子供じゃんがら」と大熊町に伝わる「熊川稚児鹿舞」の実演を予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。

(ア) 平窪子供じゃんがら 日時 2月5日(土)13時30分～15時 中止

(イ) 熊川稚児鹿舞 日時 2月26日(土)13時30分～14時30分 中止

キ 年中行事再現

季節の節目にいわき地方で行われている様々な年中行事の再現を実施した。年配の来園者には懐かしく、若い世代や子どもたちには、あまり目にする事のない年中行事に興味を持つきっかけとなった。また、年中行事の再現は写真愛好家の被写体としても関心を集めた。内容と実施日、期間は次のとおりである。

(ア) 端午の節句飾り 期間 6月2日(水)～6月13日(日)

(イ) 蚊帳吊り 期間 7月上旬～10月下旬

(ウ) 七夕飾り 期間 7月7日(水)～8月8日(日)

(エ) 盆棚飾り 月日 8月6日(金) 中止

(オ) 二百十日 月日 8月30日(月) 中止

(カ) お月見・お月見どろぼう 月日 9月20日(月) 中止

(キ) 収穫祝いの餅つき 月日 11月13日(土) 中止

(ク) 干し柿作り 月日 11月6日(土)

(ケ) エビスコ 月日 11月25日(木)

(コ) 煤払い 月日 11月25日(木)、12月1日(水)、同3日(金)

(サ) 神帰り 月日 12月4日(土)(旧暦11月1日)

(シ) こと八日 月日 12月8日(水)

(ス) 正月飾り 期間 12月18日(土)～1月31日(月)

(セ) 山入り 月日 1月6日(木)

(ソ) 農立て 月日 1月10日(月)

(タ) 小正月の餅花飾り 月日 1月15日(土)

(チ) 節分 月日 2月3日(木)

(ツ) こと八日 月日 2月7日(月)

(テ) 初午 月日 2月10日(木)

(ト) エビスコ 月日 2月20日(日)(旧暦1月20日)

(ナ) おひなさま 期間 2月20日(日)～4月10日(日)

ク 調査研究

調査研究事業では、市内各地の民俗の記録撮影及び関係者への聞き取り調査を実施した。また、市民からの民具寄贈受入れや民具調査を通年で実施した。

(ア) 御宝殿熊野神社の稚児田楽・風流 記録撮影 月日 8月1日(日)

(イ) 山の神祭礼 記録撮影及び聞き取り調査 月日 11月14日(日)

(ウ) 沼ノ内の水祝儀記録撮影 月日 1月10日(月)

ケ 園内管理事業(業者委託を除く) 期間 4月1日(木)～3月31日(木)

園内景観復元・伝承・管理事業を一部ボランティアの協力を得ながら実施。畑作(耕作・除草・収穫)、里山づくり(下草刈り・落葉集め・間引き伐採等)、除草(民家周辺・通路)、落ち葉掻き・堆肥作り、植木剪定・枝落とし、垣根作り、池の浚渫、民家清掃(ハタキ・掃き・雑巾がけ・障子張り)、囲炉裏火焚き、薪作り(切り出し→裁断→運搬→乾燥→薪割り→乾燥)、花木の展示(民家神棚等)、

干し柿作り・大根干し等（収穫・作成・展示）、園内危険箇所点検・修繕など。

古民家で生活していた当時の生活感を出すため、薪、干し柿、干し大根、餅花や神棚の榊などを配し、園内の景観維持に努めている。また、民家ゾーンが結婚式の前撮りやアニメのコスプレ写真の撮影場所として使用されるなど、活用方法にも広がりが見えた。

コ 市民による展示会（企画展示室貸出）

フォート・樹 30周年記念写真展『風貌』

会 期 7月9日(金)～7月11日(日)

入館者 223人

内 容 市民が撮影した写真作品を展示した。

サ 事業懇談会について

ア) 第1回事業懇談会

日 時 11月28日(日)10時～11時30分

出席委員 9人

議 題 懇談事項1 令和2年度事業報告について

懇談事項2 令和3年度事業経過報告（4～10月）及び事業計画（11～3月）について

その他事項

イ) 第2回事業懇談会

日 時 3月19日(日)10時～11時30分（書面開催）

議 題 懇談事項1 令和3年度事業経過報告（11月～）について

懇談事項2 令和4年度事業計画について

その他事項

(3) いわき市勿来関文学歴史館

いわき市勿来町関田長沢6番地の1 昭和63年7月1日開館

委託者及び指定管理期間 いわき市 平成30年4月1日～令和5年3月31日

令和3年度の入館者数は5,227人で、例年より入館者数が大幅に増えた令和2年度と比べると、4,778人の減となっている。令和元年度と比べると2,789人の減となるが、令和3年度は後述するように、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」や福島県の「まん延防止等重点措置」を受け、4月29日(木)から5月31日(月)までの33日間、8月7日(土)から9月30日(木)までの37日間が臨時休館となったため、5月と9月は入館者が0人となっている。臨時休館がゴールデンウィーク、夏休みと集客を見込める期間を含んでいたため、入館者数の大幅減となった。しかし、令和元年度の5月と9月の入館者数の合計が1,492人なので、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたことを差し引くと、開館していた期間については、例年に近い数の来館者があったと言える。スポット展示1で紹介した田部君子の関係者による新聞記事連載や、第3回企画展で紹介した大須賀筠軒及びスポット展示2で紹介した幕領小名浜の歴史や江戸時代の代官に関する当館職員による新聞記事連載により、企画展への注目度が上がり、来館者数の確保につながっていると思われる。

地域との連携としては、当館職員が勿来の関公園や勿来海岸を巡るウォーキング大会「海と森ウォーク」の実行委員会に参加し、地域団体や有志の大学生らとともに運営に携わった。大会当日には、大勢の大会参加者が来館した。また、「勿来八景」フォトコンテスト及び勿来の関歌会に当館館長が審査員として協力し、市民ギャラリーを作品展示場所として提供している。このほか、勿来支所の要請により、当館職員が市内各地区の情報を宣伝するコミュニティラジオ番組に出演し、企画展の内容を紹介した。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」に基づき4月29日(木)～5月31日(月)、福島県の「まん延防止等重点措置」等に基づき8月7日(土)～9月30日(木)は臨時休館とした。また、6月1日(火)～同20日(日)のいわき市の「感染拡大防止一斉行動（リバウンド防止期間）」、10月1日(金)～同10日(日)のいわき市の「リバウンド防止期間（ステージⅢ）」、そして1月24日(月)～3月31日(木)のいわき市の「まん延防止等重点措置」適用、「感染拡大防止一斉行動」及び「感染拡大防止のための集中対策期間」に基づき、事業実施について適宜、検討、対応した。本報告で事業を延期または中止、縮小しているのは、以上のことが理由である。

ア 企画展

令和3年度は、企画展として、第1回企画展「野口雨情～童謡詩人といわき～」、第2回企画展「ここまでわかった古代の勿来」、第3回企画展「大須賀筠軒とその時代」の3回の企画展を実施した。第1回企画展では野口雨情といわきとの関わり、第2回企画展では勿来地区の最新の発掘成果、第3回企画展では新出の大須賀筠軒関係資料を中心に紹介した。また、スポット展示として、スポット展示1「田部君子—清きほこりを高くかかぐる—」、スポット展示2「幕領小名浜の代官たち」を開催した。

一般にはあまりなじみのない歴史や人物を紹介した企画展も多かったように思われるが、企画展の内容に関連する新聞連載記事などの効果もあり、大いに注目を集めた。

企画展会期中には、関連事業として、講演会とギャラリートークを開催した。講演会には、企画展の内容に関連する分野を研究する外部の研究者を講師に迎えて、最新の研究成果を市民に分かりやすく普及したことで、企画展の内容をより深く理解できたと好評であった。また、臨時休館期間中を除き、毎月1回ギャラリートークを実施し、展示内容を詳しく解説した。

ア) 令和2年度第3回企画展「鈴木寿山～いわきの近代日本画家～」

会 期 1月23日(土)～4月14日(水)

入 館 者 2,061人 [4月1日(木)～同14日(水)は495人]

内 容 いわき市渡辺町ゆかりの近代日本画家鈴木寿山の生涯を、作品や書簡などをもとに紹介した。あわせて、いわき市指定文化財「絹本著色勿来関詠歌の図」を公開した。本展で初めて寿山を知った市民も多く、繊細な筆遣いに驚く方も多かった。何度も観覧に足を運んでいただいた方もいた。

関連事業

ギャラリートーク 日時 4月11日(日)14時～14時30分 聴講者 9人

イ) 第1回企画展「野口雨情～童謡詩人といわき～」

会 期 4月24日(土)～7月4日(日)

入 館 者 555人

内 容 茨城県出身の童謡詩人・野口雨情は現在のいわき市常磐湯本町で暮らしたことがあった。その作品やゆかりの品で雨情の生涯を紹介した。

本展では、今までほとんど触れられてこなかった雨情のいわき湯本時代やいわきゆかりの資料を中心として展示を行った。北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館や野口雨情生家資料館の協力で、自筆の誓約証など初公開の資料を多数展示し、これまでとは違った雨情の姿を市民に周知できた。いわきゆかりの資料として、市内に残されている雨情の子守唄の自筆資料や書簡なども翻刻し展示したことで、雨情といわきとの関わりについてより深く理解をしていただけた。

関連事業

a 講演会・対談「息子から見た野口雨情」 日時 6月19日(土)14時～15時30分 聴講者 40人 内容 野口不二子氏(野口雨情生家資料館代表)と市毛美津子氏(前北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館職員)が息子の視点から見た野口雨情の人間性について対談した。野口雨情に近い方の話を聞ける機会であったため、好評を得た。

b ギャラリートーク 日時 6月13日(日)14時～14時30分 5月16日(日)は中止 聴講者 3人

ウ) 第2回企画展「ここまでわかった古代の勿来」

会 期 7月10日(土)～9月14日(火)

入 館 者 497人

内 容 いわき市南部(勿来地区)の最新の発掘調査による出土資料を展示するとともに、勿来地区の古代の歴史を紹介した。

本展では、考古資料と文献資料の両方から古代の勿来地区の歴史が分かるような展示を構成した。考古資料については、勿来地区の出土資料だけでなく、隣接する茨城県北茨城市の出土資料も借用して展示することで、展示資料を充実させた。勿来地区の出土資料についても、近年の発掘調査で出土した資料も展示することで、最新の歴史を紹介できた。また、各時代の土器の特徴を簡潔に解説し、時代の変遷をより理解できるようにした。文献資料については、難解な記述を分かりやすく解説し、古代の勿来地区の出来事を紹介することで、各時代の歴史に対する理解をより深められるようにした。いわき市の「感染拡大防止一斉行動」及び福島県の「まん延防止等重点措置」の適用を受け、講演会をはじめとした期間内の催しの大半を中止したため、惜しむ声が多く寄せられた。

関連事業

a 講演会「古代の道でつなぐ多珂郡と菊多郡」「石城国建国と菊多郡」 日時 9月4日(土)13時～15時30分 中止 内容 早川麗司氏(北茨城市教育委員会)と猪狩みち子氏(福島県いわき海浜自然の家)による古代の勿来地区についての講演会。

b ギャラリートーク 日時 7月18日(日)14時～14時30分 8月8日(日)は中止 聴講者 5人

エ) 第3回企画展「大須賀筠軒とその時代」

会 期 11月20日(土)～2月15日(火)

入 館 者 1,755人

内 容 書画や漢詩で知られる大須賀筠軒の業績と、彼の家族や友人たちの書簡や書画を通して、幕末から明治期のいわきの漢学者たちを紹介した。

本展では、いわきの近代史を語る上では欠かすことのできない人物である大須賀筠軒について、自筆資料や書画作品などを展示し、多彩な業績を紹介した。筠軒はいわきの歴史や民俗に関する著作や、いわき市指定文化財「絹本著色二十四孝図屏風」などで知られているが、漢詩人としての業績や交友関係などを初公開となる当館所蔵資料で周知できた。早稲田大学文学学術院の池澤

一郎研究室のご協力により作成した漢詩の訓読文と書き下し文を掲示したことで、漢詩になじみのない方にも筠軒の漢詩を味わっていただけた。

関連事業

a 講演会「大須賀筠軒と瀧川君山との交友」 日時 12月18日(土)14時～15時30分 聴講者17人
内容 池澤一郎氏(早稲田大学文学学術院教授)が、筠軒の漢詩や漢詩人たちとの交友について講演した。大須賀筠軒の漢詩について、同時代の漢詩人たちの影響や古典への深い造詣などに関するもので、筠軒の詩の内容をより深く知る良い機会だったと好評を得た。

b ギャラリートーク 日時 12月12日(日)、1月16日(日) いずれも14時～14時30分 2月13日(日)は中止 聴講者 計13人

(オ) スポット展示1「田部君子—清きほこりを高くかかぐる—」

会 期 9月18日(土)～11月16日(火)

入 館 者 834人

内 容 現在のいわき市遠野町上根本に生まれ、短歌誌『潮音』で活躍し、戦時下の昭和19年(1944)27歳でその生涯を終えた歌人が残した珠玉の作品を紹介した。

本展では、君子の妹が君子の歌を書き残した原稿や君子の歌が掲載された雑誌などを展示した。田部君子の存在は市民にもあまり知られていなかったが、田部君子の関係者による新聞記事連載や講演会の開催などもあり、その存在を市民に広く周知できた。

関連事業

a 講演会「身をふるはせて——今、私たちが読む田部君子」 日時 10月16日(土)14時～15時30分 聴講者 34人 内容 いわき市出身の歌人井上法子氏が田部君子の詠んだ歌の作風とその背景について講演した。田部君子の歌についての理解をより深めていただけた。

b ギャラリートーク 日時 10月10日(日)、11月14日(日) いずれも14時～14時30分 9月26日(日)は中止 聴講者 計24人

(カ) スポット展示2「幕領小名浜の代官たち」

会 期 2月19日(土)～4月19日(火)

入 館 者 894人 [3月31日(木)現在]

内 容 いわき市小名浜には幕領を管轄する代官所があった。幕領小名浜を治めた歴代の代官たちの治績やエピソードを紹介した。

本展では、幕領小名浜を治めた主な代官及び代官の実像について解説した。展示資料については、これまで公開される機会が少なかったいわき市蔵「丹清六家文書」を中心に展示した。特に、職務内容や身分といった代官の実像については市民の認知度も低いと思われるが、本展に関連した当館職員による新聞記事連載も併せて、幕領小名浜をめぐる歴史を市民に深く理解していただけた。

関連事業

ギャラリートーク 日時 3月13日(日)14時～14時30分 中止

イ 市民ギャラリー活用

市民ギャラリーの利用は4回あった。当館が主催した市民ギャラリー展示「なつかしの昭和の切手」も市民の関心を得られた。市民ギャラリーは無料で入館できることもあり、休憩の場として、サイクリングやウォーキングを楽しむ市民による利用も目立った。

(ア) 「第11回『勿来八景』フォトコンテスト入選作品展」(令和2年度)

主催 いわき市南部地区中心市街地活性化協議会 会期 4月1日(木)～同8日(木) [3月19日(金)から開催]

内容 第11回「勿来八景」フォトコンテスト入選作品の巡回展示。

(イ) 「原爆と人間」

主催 いわき市 会期 8月1日(日)～同16日(月)

内容 写真パネルなどの展示を通して、原爆の悲惨さや核廃絶の取り組みなどを紹介した。

(ウ) 「短歌作品展」

主催 勿来短歌を楽しむ会 会期 11月20日(土)～12月18日(土)

内容 短歌作品の色紙・短冊を掲示し、会員の活動成果を発表した。

(エ) 「なつかしの昭和の切手」

主催 当館 会期 12月25日(土)～2月27日(日)

内容 昭和20年から40年代の記念切手である日本の歌、国立公園、相撲絵、国宝、近代美術、東京オリンピックなどのシリーズやお年玉切手などを展示した。

(オ) 「第12回『勿来八景』フォトコンテスト入選作品展」(令和3年度)

主催 いわき市南部地区中心市街地活性化協議会 会期 3月18日(金)～4月7日(木)

内容 第12回「勿来八景」フォトコンテスト入選作品の巡回展示。

ウ クラフト教室

(ア) ゴールデンウィーククラフト教室「バルーンで動物を作ろう」

日時 5月2日(日)10時～11時30分 中止

内容 バルーンアーティストの馬籠洋子氏によるバルーンアート教室。

(イ) 夏休みバルーンアート教室「おうち水族館」

日時 8月7日(土)10時～11時30分、14時～15時30分 中止

内容 バルーンアーティストの馬籠洋子氏によるバルーンアート教室。

(ウ) 冬休みクラフト教室「ヒンメリを作ろう」

日時 12月25日(土)14時～15時30分 参加者 26人

内容 ストローを使って北欧フィンランドの装飾品を制作した。子どもから大人まで幅広い年代の参加者から、楽しみながら制作できたとの声があった。

エ 団体入館者

各種団体へ常設展・企画展について解説し、勿来関にまつわる歴史や文学などを詳しく周知した。

期 間 7月13日(火)～3月25日(金)

入館者 7団体計159人

7月13日(火) 福島県立いわき支援学校くぼた校 15人

11月18日(木) いわき市立三和小学校 15人

11月22日(月) いわき市立川部小学校 12人

11月26日(金) 美浦村立木原小学校 45人

12月5日(日) いわき市立草野心平記念文学館ボランティアの会事業「文学散歩」 27人

12月11日(土) 一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー主催事業「いわきはじめて巡り」
25人

3月25日(金) かがみいしスポーツクラブ 20人

オ 出前講座

各種団体の要請により、地域の歴史や文学を解説し、受講者の知的好奇心に応えた。

期 間 9月29日(木)、11月26日(金) 2件2回 受講者 計47人

(ア) 一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー主催「いわきツーリズムガイド養成講座」

(イ) いわき市生涯学習プラザ主催「いわきゆかりの文学～図書館資料を活用して～」

カ 博物館実習の受け入れ

収蔵品の整理や展示解説資料の作成などを行った。

期間 8月5日(木)～同9日(月) 実習生 鶴見大学生 1人

キ 調査研究活動

(ア) 野口雨情関連資料の調査 期間 3月～4月

茨城県北茨城市磯原町の出身で、大正期を代表する童謡詩人・野口雨情は「七つの子」「赤い靴」「シャボン玉」などの童謡で知られる。調査では、市内に残る個人蔵の雨情直筆資料を解説した。以上の成果については、第1回企画展「野口雨情」に活用した。

(イ) 田部君子関連資料の調査 期間 6月～8月

田部君子は藤田女学校入学後、『磐城新聞』短歌欄の選者であった小山田滋に短歌を学ぶ。その後、小山田の導きで太田水穂の短歌結社潮音社に加わり、目覚ましく活躍した。調査では、戦前に発行された雑誌や新聞から、従来知られていなかった君子の作品を発見した。

以上の成果については、スポット展示1「田部君子」に活用した。

(ウ) 大須賀筠軒関連資料の調査 期間 8月～12月

大須賀筠軒は磐城平藩の藩儒・神林復所の三男として生まれ、漢詩人・教育者・郷土史家・芸術家・実業家など幅広い分野で業績を残した。調査では、当館所蔵の自筆資料と市内に残る個人蔵の書について、早稲田大学文学学術院池澤一郎研究室のご協力をいただき、翻字と読み下しを行った。また、市内に残る筠軒の撰文した石碑についても調査を行った。

以上の成果については、第3回企画展「大須賀筠軒とその時代」に活用した。

(エ) 小名浜代官関連資料の調査 期間 11月～2月

江戸時代中期から幕末にかけて、現在のいわき市小名浜周辺は、幕府から派遣された代官が治める幕領であり、小名浜には周辺を管轄する代官所が設置されていた。調査では、小名浜代官関連文書を収める市蔵「丹清六家文書」などの解説にあたった。また、幕領小名浜に関連する文化財の所在確認を行った。

以上の成果については、スポット展示2「幕領小名浜の代官たち」に活用した。

ク 事業懇談会の開催について

- ア) 第1回事業懇談会
日 時 7月1日(木)10時～11時
委 員 6人出席 1人欠席
議 題 令和2年度事業報告について
今後の予定について
その他
企画展「野口雨情」見学

- イ) 第2回事業懇談会
月 日 3月22日(火)～同30日(水) (書面開催)
議 題 令和4年度事業計画について
今後の予定について
その他

(4) いわき市アンモナイトセンター

いわき市大久町大久字鶴房147番地の2 平成4年11月19日開館
委託者及び指定管理期間 いわき市 平成31年4月1日～令和6年3月31日

令和3年度の入館者数は、前年度と比べて5,189人少ない7,053人である(前年度比57.6%)。これは臨時休館していた期間及び主催事業を中止した期間がある事と、昨年度と比較して秋季の団体利用が減少した為である。但し9月以降、厳冬期(12月～2月)に掛けて来館者が減る傾向は例年変わらず、年度下半期における来館者の獲得が課題である。また、令和4年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ来館者数をどの様にして回復させていくのかを模索する必要がある。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」に基づき4月29日(木)～5月31日(月)、福島県の「まん延防止等重点措置」等に基づき8月7日(土)～9月30日(木)は臨時休館とした。また、6月1日(火)～同20日(日)のいわき市の「感染拡大防止一斉行動(リバウンド防止期間)」、10月1日(金)～同10日(日)のいわき市の「リバウンド防止期間(ステージⅢ)」、そして1月24日(月)～3月31日(木)のいわき市の「まん延防止等重点措置」適用、「感染拡大防止一斉行動」及び「感染拡大防止のための集中対策期間」に基づき、体験発掘の人数制限や事業実施について適宜、検討、対応した。本報告で事業を延期または中止、縮小しているのは、以上のことが理由である。

ア 企画展

古生代ペルム紀には未だ日本列島は存在せず、現在のいわき市域は南部北上古陸という小大陸ないし島弧であった。また、中生代白亜紀には後に日本列島になる地域はユーラシア大陸の東縁に位置していたと考えられている。

夏休み企画展では、いわき市四倉町八茎地域に分布するペルム系高倉山層の化石を、冬休み企画展では白亜系双葉層群足沢層から産出する巻貝化石をそれぞれ用いて当時の地球環境や生物相の解説をした。

夏休み企画展、冬休み企画展ともに会期中のミニ発掘を目的に来館する利用者が見受けられ、体験発掘非実施日の入館者数増に貢献した。

ア) 夏休み企画展「いわきの古生代 高倉山層の化石」

会 期 7月22日(木)～8月31日(火)

入 館 者 1,043人

内 容 古生代ペルム紀の地層である高倉山層からは、三葉虫やアンモナイト、サンゴや腕足類といった大型化石が豊富に産出し、従来多くの研究が行われてきた。本企画展では、ペルム紀当時のいわき周辺にはどのような生物がいたのか、そして当時の地球がどのような環境だったのか、化石資料を用いながら紹介、解説した。

関連事業 ミニ発掘体験コーナー(三葉虫) 会期中の体験発掘非実施日に実施した。

イ) 冬休み企画展「いわきの中生代 足沢層の巻貝」

会 期 12月25日(土)～1月10日(月)

入 館 者 709人

内 容 いわき市アンモナイトセンターに露出している後期白亜紀コニアシアン(コニアシアン)の浅海成堆積物である双葉層群足沢層砂岩からはおよそ10種類の巻貝が産出する。本企画展では、体験発掘において産出する巻貝に焦点を当て、白亜紀当時の浅海域にどのような巻貝が生息していたのか比較・解説した。

関連事業 ミニ発掘体験コーナー(三葉虫) 会期中の体験発掘非実施日に開催した。

イ 体験学習

一般体験発掘及び特別体験発掘を合計した体験発掘参加者数は前年度を上回る月があるものの、全

体としては前年度の8,985人を大きく下回る5,152人（前年度比57.3%）となっている。体験発掘参加者の居住地別割合をみると、前年度に比べて県外からの利用者の割合にあまり変動はみられないが、市内からの割合が増加し県内からの割合が減少している。

ア) 一般体験発掘

既述したように、4月29日(木)～5月31日(月)及び8月7日(土)～9月30日(木)に掛けて臨時休館したために、例年であれば参加者の多くなる5月の大型連休や8月のお盆休み期間に体験発掘を開催できず、前年度7,447人に比べて大幅に減少している（前年度比59.8%）。

会 期 毎週土曜日・日曜日及び7月23日(金) 10時～11時30分、13時30分～15時

1月29日(土)以降は中止 回 数 108回 参加者 計4,453人

イ) 特別体験発掘

小・中学校を中心とした特別体験発掘に関しては参加団体数22（前年度比68.8%）、参加人数699人（前年度比45.4%）と個人向けの一般体験発掘に比べても減少の割合が大きくなっている。利用団体の内訳を見ると、市内小学校が延べ7校のほか市内の学童クラブ等が7団体と市内からの利用で全体の6割あまり（63.6%）を占める。また、産業技術総合研究所地質調査総合センターの研修での利用や、新潟大学理学部の野外巡検での利用など高等教育機関や研究機関の利用が見られる。しかし、未だに東日本大震災前の水準までは回復しておらず、特に関東圏の小・中学校からの利用はほとんどない。福島第一原発事故による風評被害により利用しなくなってしまった関東圏の小・中学校等の団体での利用促進を積極的に推し進めることが今後の課題として考えられる。実施日、参加団体及び人数は以下の通り。

6月4日(金)	国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター	8人
6月13日(日)	福島県立会津学鳳高校	11人
6月24日(木)	いわき市立上遠野小学校	23人
7月30日(金)	くほんじ学童クラブ	51人
8月3日(火)	株式会社dreamLab	14人
10月1日(金)	いわき市立平第二小学校（雨天のため館内見学のみ）	64人
10月6日(水)	いわき市立平第五小学校	95人
10月8日(金)	いわき市立植田小学校	91人
10月15日(金)	新潟大学理学部	10人
10月16日(土)	NPO法人VIDA	37人
10月17日(日)	ボーイスカウト福島連盟いわき第10団(雨天のため館内見学のみ)	15人
10月21日(木)	南光学園東北高校	32人
11月12日(金)	いわき市立上遠野小学校	22人
11月17日(水)	いわき市立平第四小学校	49人
11月17日(水)	いわき市立永崎小学校	36人
11月19日(金)	郡山市立高瀬中学校	42人
11月21日(日)	須賀川市民交流センター	7人
11月28日(日)	ボーイスカウト福島連盟いわき第10団	19人
12月4日(土)	いわき市立中央公民館	25人
12月11日(土)	ときわ児童クラブ	15人
12月11日(土)	仙台ECO動物海洋専門学校	9人
12月19日(日)	Vamos福島ホワイトトリバーフットボールクラブ	24人

ウ) 親子自然探訪教室

地質学や古生物学に限定しない自然科学分野の多様なテーマを設定し、野外での体験を軸としたアクティブラーニングプログラムを提供した。前年度に引き続き祝日となる月曜日を主体として全5回を開設した。今年度は第2回及び第5回は臨時休館及び主催事業自粛期間と重なったため中止した。前年度に比べて開催回数が減少したために参加者数も減少している。

開催テーマにより参加者数にばらつきが有るほか、講師の高齢化が進んでおり、今後は開催テーマに関しては、内容の検討・改編に努める必要がある。実施日、参加人数は以下の通り。

7月22日(木)	昆虫採集に出かけよう！	57人
9月23日(木)	不思議なキノコを探しにいこう！	中止
11月3日(水)	陶芸に挑戦しよう！	23人
1月10日(月)	冬の星座を見つけよう！	25人
3月21日(月)	コハクを発掘しにいこう！	中止
		計105人

ウ 化石講演会

月 日 2月9日(水) 中止

会場 いわき市立久之浜中学校体育館
演題 解き明かせ、恐竜のナゾ
講演者 田中 康平氏（筑波大学生命環境系 助教）

エ 出前講座 いわき市立久之浜第一小学校で化石発掘体験を実施した。
月 日 9月24日(金) 受講者 25人

オ 調査研究活動

アンモナイトセンターが立地する双葉層群足沢層に関して、古生物学的、堆積学的、地球化学的な観点からの研究を諸機関と合同で行った。これらの研究成果は2月4日(金)～6日(日)にオンラインにて開催された日本古生物学会第171回例会において発表した。また、(ア)に関しては日本地質学会邦文誌「地質学雑誌」において令和4年度中に論文が公開される見込みである。

(ア) いわき市指定天然記念物「アンモナイトセンター内化石包蔵地」の研究

大型アンモナイト化石密集層準の成因について、堆積学的及び地球化学的検討を加えるため、茨城大学及び名古屋大学、公益財団法人深田地質研究所と共同で大久地域の地質調査を行うとともに、アンモナイトセンター屋内及び野外露頭から岩石試料を採取し名古屋大学にて化学分析を行った。

(イ) 双葉層群足沢層から産出するサメの歯化石の研究

筑波大学と共同して、アンモナイトセンター内の体験発掘露頭（足沢層大久川部層）から産出するサメの歯化石に関して古生物学的な検討を行った。

(ウ) 双葉層群足沢層から産出するアンモナイト化石の研究

公益財団法人深田地質研究所及び、福島県立博物館、三笠市立博物館、茨城大学と共同で双葉層群足沢層から産出するアンモナイト化石について古生物学的な検討を行った。

カ 刊行物

月刊アンモナイト通信 第3巻4号～11号、第4巻1号～3号 毎月1号刊行

キ 運営委員会

(ア) 第1回運営委員会

日 時 7月2日(金)10時～11時

出席委員 10人

議 題 報告第1号 令和2年度事業について
報告第2号 令和3年度第一四半期（4・5月）の事業について
報告第3号 令和3年度第二四半期以降の事業計画について

(イ) 第2回運営委員会

月 日 2月18日(金)（書面開催）

議 題 報告第1号 令和3年度2月期迄の事業について
報告第2号 令和4年度の事業計画について

(5) いわき市考古資料館

いわき市常磐藤原町手這50番地の1 平成9年12月1日開館
委託者及び指定管理期間 いわき市 平成31年4月1日～令和6年3月31日

令和3年度の入館者は5,394人となり、前年度比78.4%と1,487人減少した。内訳は、入館者が4,612名で前年度比1,309人減、出前講座などの館外利用者は33件782人で、前年度比8件増の178人減となった。また、団体入館者は、18件702人で、前年度比4件減の151人増となった。

主な年間事業は、企画展、講座・講演会、体験学習会を基本とし、市民の「見る・知る・学ぶ」の欲求をわかりやすく還元できるように計画的に実施した。また、小学校などの学校団体などを受け入れ、展示解説や勾玉作りなどの体験学習を実施し、学校プログラムにも対応することで、児童・生徒の歴史への好奇心の喚起に務めた。さらに、博物館実習生の受け入れを行い、大学との連携した資格取得にも取り組んだ。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」に基づき4月29日(木)～5月31日(月)、福島県の「まん延防止等重点措置」等に基づき8月7日(土)～9月30日(木)は臨時休館とした。また、6月1日(火)～同20日(日)のいわき市の「感染拡大防止一斉行動（リバウンド防止期間）」、10月1日(金)～同10日(日)のいわき市の「リバウンド防止期間（ステージⅢ）」、そして1月24日(月)～3月31日(木)のいわき市の「まん延防止等重点措置」適用、「感染拡大防止一斉行動」及び「感染拡大防止のための集中対策期間」に基づき、事業実施について適宜、検討、対応した。本報告で事業を延期または中止、縮小しているのは、以上のことが理由である。

ア 企画展

企画展 3回、ミニ展示 1回、計 4回の展示会を開催した。

「令和 2 年度発掘速報展」は、前年度に実施した発掘調査、試掘・確認調査及び調査報告書を刊行した遺跡を対象とした展示で、市民へのいち早い調査成果の公開が実施できた。第 2 回・第 3 回は、年間テーマを「古墳時代」とし、前半は「古墳」、後半は「横穴」をテーマに開催した。「古墳」では、玉山古墳や神谷作古墳群などの古墳や埴輪を、「横穴」では、中田横穴や餓鬼堂横穴群などの装飾横穴や副葬品を展示し、普段あまり見ることができない遺跡や遺物を紹介することで、市民の古墳に対する関心が高まった。

(ア) 令和 2 年度第 2 回企画展「いわきの弥生時代を探る」後期-新たな墓の出現

会 期 令和 2 年 12 月 20 日(日)～ 4 月 11 日(日)

入館者 1,943 人 [4 月 1 日(木)～同 11 日(日)は 137 人]

内 容 いわきの弥生時代の墓制について、土器棺や副葬品を展示することで、理解を深めた。

(イ) 第 1 回企画展「令和 2 年度発掘速報展」

会 期 4 月 24 日(土)～ 6 月 20 日(日)

入館者 406 人

内 容 令和 2 年度に行われた試掘・確認調査、本発掘調査、報告書等刊行した遺跡の成果を、出土遺物と写真パネルを使って解説した。

関連事業

a 遺跡報告会

日 時 5 月 9 日(日) 13 時 30 分～15 時 中止

b 展示解説会

日 時 6 月 6 日(日) 13 時 30 分～15 時 5 月 9 日(日)は中止

聴講者 6 名

(ウ) 第 2 回企画展「いわきの古墳時代を探る 巨大前方後円墳の出現」

会 期 7 月 3 日(土)～10 月 31 日(日)

入館者 1,308 人

内 容 玉山古墳をはじめとするいわき市内の前方後円墳を概観し、前方後円墳が登場した時代背景を探るとともに、市内の古墳について解説した。

関連事業

a 講演会「古墳から見るいわきの地域性」(会場 いわき市生涯学習プラザ)

日 時 9 月 5 日(日)を 2 月 6 日(日) 13 時 30 分～15 時に延期したが、中止

b 展示解説会

日 時 7 月 11 日(日) 13 時 30 分～15 時 9 月 26 日(日)は中止

聴講者 19 人

(エ) 第 3 回企画展「いわきの古墳時代を探る 装飾横穴の謎」

会 期 11 月 13 日(土)～ 3 月 27 日(日)

入館者 1,965 人

内 容 いわき市を代表する装飾横穴である国史跡「中田横穴」を中心に、市内の装飾横穴を概観し、副葬品などの出土遺物を展示するとともに、県内の装飾横穴についても解説した。

関連事業

a 展示解説会

日 時 11 月 21 日(日) 13 時 30 分～15 時 2 月 20 日(日)は中止

聴講者 13 人

b 講演会「中田装飾横穴について」 日 時 12 月 12 日(日) 13 時 30 分～15 時 聴講者 41 人

(オ) ミニ企画展「干支-とら-」

会 期 1 月 2 日(日)～ 1 月 31 日(月) 入館者 503 人

内 容 令和 3 年の干支「寅(とら)」に関する資料を紹介した。

イ 講座・講演会 計 6 回

講座は、「ボランティア養成講座」2 回、「自由研究に挑戦しよう!!」、「いわきの考古学講座」3 回を実施した。「ボランティア養成講座」は新たな受講者もあり、ボランティア活動にも登録していただいた。「自由研究に挑戦しよう!!」では、夏休みの児童の自由研究の手助けとして、企画展テーマに合わせて古墳時代を研究した。いわきの考古学講座は、いわき市生涯学習プラザ「ふるさと再発見講座」との共催事業として実施した。企画展の年間テーマに合わせた「古墳時代」について、5 人の専門家による講座を開催した。「装飾横穴」の三角文、「馬具」や「甲冑」などの副葬品をテーマとし、専門的な研究について聞く機会となった。なお、2、3 月に予定していた 2 講座については、令和 4 年度 4 月に延期した。

(ア) 第 1 回ボランティア養成講座

日 時 6月19日(土)13時30分～16時

受講者 6人

内 容 新規及び既登録者を対象に、考古資料館の役割や接遇を学習するとともに、キッズミュージアムの事前研修として勾玉づくりと羊毛フェルトを体験し、指導手順と安全管理について学んだ。

(イ) 第2回ボランティア養成講座

日 時 10月16日(土)13時30分～16時

受講者 7人

内 容 古代まつりの事前研修として、ガラス玉づくりと火おこしの体験を行い、指導手順と安全管理を学んだ。また、新規登録者は勾玉づくり体験を行った。

(ウ) 自由研究に挑戦しよう!!

日 時 8月1日(日)9時30分～11時

受講者 4人

内 容 いわきの古墳についてワークシートを使って学習し、玉山古墳の簡単な模型を作った。

(エ) いわきの考古学講座

日 時 11月27日(土)、12月25日(土)、1月22日(土)いずれも13時30分～15時 2月26日(土)、3月26日(土)は4月16日(土)、同23日(土)に延期 全5回

主催・会場 いわき市生涯学習プラザ 受講者 延べ145人 受講登録60人

内 容 企画展「いわきの古墳時代を探る」関連講座として、玉山古墳や中田横穴が造られた古墳時代の墓や副葬品について、第一線の研究者と当財団調査係職員が講義を行った。古墳時代の詳細な内容が聞けて良かった、といった声が寄せられ、好評だった。講座名と出講職員は次のとおり。

a 「いわきの古墳－玉山・塚前・神谷作－」 木幡成雄 (考古資料館館長)

b 「文様に込められた古墳時代の思想－中田横穴の三角文から考える－」 塚田良道氏 (大正大学)

c 「いわきの横穴－餓鬼堂横穴群からみるその特徴－」 千田一志 (当財団研究員)

d 「いわき市中田横穴出土の馬具の復元」 吉田秀亨氏 (川俣町教育委員会)

e 「いわきの横穴と飛鳥・斑鳩～八幡横穴群の出土品から～」 横須賀倫達氏 (文化庁)

ウ 体験学習会

今年度の体験学習会は、「古代まつり」・「勾玉づくり体験会」3回のみ実施できた。各回とも、家族連れでの参加が多く、子どもとその家族が古代体験を楽しんだ。

(ア) ゴールデンウィーク体験学習会

日 時 5月2日(日)9時30分～15時 中止

内 容 勾玉づくり・鹿角ペンダントづくり・火おこし・狩りに挑戦などの体験会。

(イ) いわきキッズミュージアム

日 時 8月8日(日)9時30分～15時 中止

内 容 勾玉づくり・火おこし・狩りに挑戦・古墳コースターづくりなどの体験会。

(ウ) 古代まつり

日 時 11月7日(日)9時30分～15時

参加者 181人 143人来館

内 容 勾玉づくり・鹿角ペンダントづくり・ガラス玉づくり・火おこし・弓矢・ワークシートを使った館内探検などを体験した。

(エ) 勾玉づくり体験会

日 時 7月31日(土)、12月26日(日)、1月9日(日)いずれも9時30分～15時 5月4日(火)、同5日(水)、8月15日(日)は中止

参加者 153人 (実体験者 70人)

内 容 当館の人気プログラムである勾玉づくりを体験した。

(オ) バレンタインデー特別体験会「ペアで勾玉をつくらう！」

日 時 2月7日(日)9時30分～15時 中止

内 容 バレンタインデーにちなみ、ピンク色の滑石を使い、恋人・親子・友人同士など二人一組で勾玉をつくる体験会。

エ 団体入館 期間

学校・公民館・支所・各種団体への展示解説及び勾玉づくりなどの体験指導を実施した。市内の発掘調査で見つかった土器・石器などを実見し、触れるなかで、様々なものづくりを体験しながらいわきの歴史の一端を伝えた。

期間 4月23日(金)～1月19日(水) 入館者 18団体計702人

オ 出前講座

学校や公民館から要請を受け、勾玉づくりや弓矢などの体験指導や、地域の歴史について講義した。
あわせて当館の魅力や利用法を紹介し、利用促進を図った。

期間 4月17日(土)・10月13日(水) 受講者 2回計99人

カ 博物館実習の受け入れ

出土遺物の水洗や、採掘、展示パネルの作成、遺物の実測、資料の取り扱い方、発掘調査現場及び施設の見学を行った。

期間 8月23日(月)～同27日(金) 実習生 茨城大学生 1人

キ 事業懇談会

(ア) 第1回事業懇談会

日 時 10月24日(日)10時～11時

出席委員 10人

議 題 報告第1号 令和2年度事業報告について
報告第2号 令和3年度経過報告について
その他事項

(イ) 第2回事業懇談会

月 日 3月19日(土) (書面開催)

議 題 報告第1号 令和3年度経過報告について
報告第2号 令和4年度事業計画について

(6) 福島県いわき海浜自然の家

いわき市久之浜町田之網字向山53 平成8年7月20日開所

委託者及び指定管理期間 福島県 平成31年4月1日～令和6年3月31日

令和3年度の利用状況は、304団体、延べ利用者数17,062人で、利用者予測の31,000人を大幅に下回ったが、令和2年度(281団体・13,137人)と比較すると、団体数で108.1%増、延べ利用者数では129.8%増となった。

令和3年度の受け入れについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年度に引き続き利用定数を半数以下とし、利用日数も1泊2日までとした。学校教育団体の宿泊活動についても、学校の規模を考慮しながら1日あたりの利用受け入れは最大6校まで、さらに宿泊は3校までとした。さらに、所管課である福島県教育庁社会教育課の指示により、5月8日～6月7日、7月31日～10月10日、1月27日～3月31日の期間において宿泊利用の受け入れを停止とし、日帰り利用のみ受け入れを行った。また、活動内容についても、5月8日～6月7日、7月31日～9月30日の期間は感染リスクの高い活動(野外炊飯)を禁止としたが、10月1日から感染防止対策を徹底した上で徐々に再開した。

これにより、学校教育団体の宿泊活動については、当初は夏休み期間を除いた5月下旬から10月中旬までの受け入れを計画していたが、多くがキャンセルまたは10月から12月の期間に変更となったため、年間計画の臨時開所日と振替休所日を変更して対応した。また、このことが社会教育団体の平日利用にも大きく影響することとなったが、新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少した時期にスポーツや音楽関係の大会が開催されるようになったことで、学校の部活動やスポーツ少年団の合宿による利用に回復傾向が認められた。

施設管理に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で利用制限を行っていた時期に、設備の点検・修繕等を集中して実施し、利用環境の整備を図った。また、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底し、利用者が安全に、安心して利用できるよう努めた。

ア 主催事業

主催事業は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を徹底しながら実施した。例年、1月に会津地方でスキーを楽しむ「冬を楽しもう」については、内容を変更し、当所の野営場で家族向けの日帰りキャンプを行った。その他の事業についても、参加人数の制限及び事前申し込み制とした。申し込みにあたっては、従来の電話による申し込みに加え、利用者の利便性に配慮してインターネットを利用した方法も取り入れた。

(ア) 遊ぼう！初夏の海で

日 時 5月30日(日)9時30分～15時 中止

内 容 初夏の海で、釣りや磯遊びを楽しみながら、親子のふれあいを深める事業。

(イ) 春のオープンデー(第1回未来キッズ生き生き事業)

日 時 5月16日(日)を6月13日(日)10時～15時に延期

参加者 142人 定員200人 予約制

内 容 施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動をとおして、当所への理解を深めるとともに、ボランティアスタッフや地域団体とのふれ合いにより、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図った。

(ウ) ふれあいサマーキャンプ

日 時 7月31日(土)10時～8月1日(日)14時30分 中止

内 容 自然体験活動をとおして自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う事業。

(エ) スポーツフェスティバル (第2回未来キッズ生き生き事業)

日 時 10月3日(日)10時～15時

参加者 97人 定員100人 予約制

内 容 子どもから大人まで一緒にニュースポーツなどを楽しみながら健康への意識向上を図った。

(オ) 秋のオープンデー (第3回未来キッズ生き生き事業)

日 時 10月24日(日)10時～15時

参加者 191人 定員200人 予約制

内 容 施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動をとおして、当所への理解を深めるとともに、ボランティアスタッフや地域団体とのふれ合いにより、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図った。

(カ) ふれあいオータムキャンプ

日 時 11月6日(土)10時30分～11月7日(日)14時30分

参加者 15人 定員24人

内 容 県内の小学校4～6年生を対象として、背戸岬廊ハイキング、キャンプファイア、野外炊飯等を行い、自然体験活動をとおして自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養った。

(キ) 親子のつどい

日 時 12月12日(日)10時～15時

参加者 37人 定員50人 予約制

内 容 家族が協力し、自然の素材を利用してクリスマスリースを作りながら、親子の絆を深めた。

(ク) 冬を楽しもう! ～冬のDAYキャンプ～

日 時 1月16日(日)9時30分～14時

参加者 8組30人 定員10組 予約制

内 容 1月9日(日)に会津地方でスキーを楽しむ「冬を楽しもう! ～スキー教室～」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症のため、所内での家族向けの日帰りキャンプ体験へ変更した。テント立て、薪割り体験、お餅料理など、子どもが貴重な体験をすることができたと好評であった。

(ケ) クラフトのつどい

月 日 3月6日(日)10時～14時30分 中止

内 容 自然の素材を生かしながらオリジナルの作品を作り、地域の豊かな自然環境を体感する事業。2月13日(日)から延期したが、中止とした。

(コ) 森の音楽会

月 日 3月6日(日)15時～16時30分 中止

内 容 地元演奏家によるコンサートを聴き、音楽に親しむことで、当所の活動に理解を深めてもらう事業。

イ 研修企画事業

(ア) 学校団体指導者事前研修会

学校教育団体を対象に、研修計画立案や利用方法についての研修会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、資料を送付し、電話及び書面で確認した。

(イ) 活動プログラム研修会

今年度利用する社会教育団体を対象に、施設見学・プログラムの実技研修等をとおして、自主的な活動の進め方や活動計画作成に理解を深め、円滑な活動ができるように活動計画書作成について支援する事業。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、資料の郵送と電話及び書面で確認を行った。

(ウ) ボランティア養成講座

期 間 6月6日(日)9時30分～14時、7月11日(日)9時30分～14時30分、11月14日(日)9時30分～14時、12月19日(日)9時30分～14時30分

受講者 4回 延べ39人

内 容 自然の家を支援する上で必要な知識と技能を習得するとともに、ボランティアスタッフとしての資質向上を図った。第1回は5月9日(日)を6月6日(日)に、第3回は9月26日(日)を11月14日(日)に延期して実施した。

ウ 未来キッズ生き生き事業 第4～6回

つどいの広場・多目的広場・トリムランド・体育館などで身体を動かすプログラムを提供し、子どもたちの運動不足の解消や体力向上を促進した。全6回で、第1～3回は主催事業との共催事業である。

日 時 11月28日(日)、1月23日(日)いずれも10時～14時 2月27日(日)は中止

参加者 計273人 予約制 各定員150人

エ 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

浜通り地域の不登校児童生徒を対象に、関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら自然体験活動や交流体験の機会を提供した。いわき市については市総合教育センターの協力を得た。所外での活動として背戸峨廊ハイキングを実施したが、協力しながら困難なコースを踏破したことで、社会性を育み、達成感及び自己肯定感を向上させることができた。

わくわく自然体験

日 時 7月9日(金)10時～14時20分、10月15日(金)10時～13時15分 2月2日(水)は中止

参加者 2回 延べ32人

オ 出前講座

日 時 12月18日(土)・12月25日(土)

参加者 2回 計84人

内 容 市内公民館が主催する児童向けの事業において、屋外の自然体験やクラフト活動等の講座を実施した。市内の公民館と連携することで、各地域で当所の活動を広報することができた。

カ 連携事業

(ア) 親子自然探訪教室

共 催 いわき市アンモナイトセンター

日 時 1月10日(月)16時30分～19時30分

参加者 25人 予約制 定員30人

内 容 当所で冬の星座の観察会を行い、施設への理解を深めることができた。

(イ) ウィンターフェスティバル（福島県会津自然の家）

期 間 1月22日(土)～1月23日(日) 参加中止

(ウ) 生涯学習フェスティバル（いわき市生涯学習プラザ）

月 日 2月19日(土)～2月20日(日) 中止

キ 施設利用

期 間 4月1日(木)～3月31日(木)

利用者 304団体（学校教育団体176団体 社会教育団体103団体 その他25団体） 延べ利用者数17,062人

内 容 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、状況に応じた利用受け入れの対応をしたが、4月から3月まで151団体（延べ利用者数11,953人）の変更及びキャンセルがあった。

4月1日(木)～4月30日(金) 利用定数を半数以下とし、宿泊利用は1泊2日を上限とした。

5月8日(土)～6月7日(月) 宿泊利用受け入れの停止。日帰り利用のみ受け入れ。感染リスクの高い活動（野外炊飯）禁止。

6月8日(火) 宿泊利用受け入れ及び野外炊飯を再開。

7月31日(土)～9月30日(木) 宿泊利用受け入れの停止。日帰り利用のみ受け入れ。感染リスクの高い活動（野外炊飯）禁止。

10月1日(金)～同10日(日) 宿泊利用受け入れの停止。日帰り利用のみ受け入れ。感染リスクの高い活動（野外炊飯）は感染防止対策を行った上で、徐々に実施。

10月11日(月) 感染防止対策を行った上で、宿泊利用受け入れを再開。

1月27日(木)～3月31日(木) 宿泊利用受け入れの停止。日帰り利用のみ受け入れ。感染リスクの高い活動（野外炊飯等）禁止。

ク その他

11月17日(水) 委託者による指定管理者制度における外部評価実施

(7) いわき市生涯学習プラザ

いわき市平字一丁目1番地 平成14年4月16日開館

委託者及び指定管理期間 いわき市 令和2年4月1日～令和7年3月31日

令和3年度の利用者数は36,406人で、前年度に比べて24,362人の減となった。また、施設使用許可申請数は2,487件で265件の減となった。これらの減少は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休館及び、開館時間短縮・利用者数の制限による影響が大きいものと考えられる。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、いわき市の「感染拡大防止一斉行動」に基づき4月29日(木)～5月31日(月)、福島県の「まん延防止等重点措置」適用及びいわき市の「感染拡大防止のための集中対策期間」に基づき8月7日(土)～9月30日(木)、1月24日(月)～3月31日(木)は臨時休館とした。また、いわき市の「感染拡大防止一斉行動(リバウンド防止期間)」に基づき6月1日(火)～同20日(日)、「感染拡大防止一斉行動」に基づき7月31日(土)～8月6日(金)、「リバウンド防止期間(ステージⅢ)」に基づき10月1日(金)～同10日(日)の期間は、開館時間を20時までとし、事業実施について適宜検討、対応した。本報告で事業の日程を変更、延期または中止している場合は、以上のことが理由である。

ア 講座・事業

市民講座は、年間50講座を企画し、42講座を実施した。8講座未実施の理由は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の防止による中止または延期である。また、3月の臨時休館期間中に実施を予定していた講座については、令和4年4月に繰越実施予定とした。生涯学習プラザ講座のほか、ボランティア活用事業として、子育て支援ボランティアによる「パーティー・テーブル」「わらべうた あそび」やITボランティアリーダーによるパソコン講座を毎月開催し、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークル・団体が実施するサークル企画講座では、「朗読教室」「楽しい朗読」「スクラッチで音楽を作ろう!」を延べ7講座開催した。

その他の自主事業では、「七夕飾り」「雑誌リサイクル会」「クリスマスディスプレイ」の3件を実施した。共催事業の「普段着のお茶会」「第52回諸流いけばな展」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の防止のため中止とした。

(ア) 現代的課題に関する講座

a いわきゆかりの文学～図書館資料を活用して～(ライフプランニング講座)

日時 11月5日(金)～12月3日(金)18時30分～20時30分 全5回

受講者 延べ73人 受講登録17人

内容 いわきゆかりの文学者の作品を図書館の資料を活用しつつ学んだ。

b 石炭といわき(環境・まちづくり講座)

日時 11月13日(土)～12月5日(日)14時～16時 全4回

受講者 延べ49人 受講登録20人

内容 常磐炭田やいわき市石炭化石館の歴史や事業などから、いわきと炭鉱のかかわりを学んだ。

c はじめよう! Word(パソコン実用講座Ⅰ)

日時 7月1日(木)～7月29日(木)18時30分～20時30分 全4回

受講者 延べ61人 受講登録20人

内容 ワード初心者対象講座として、文字のコピー・貼り付けなどの基礎的な操作や段落・フォントサイズの変更などを理解し、実際に表を作成した。

d Wordステップアップ!(パソコン実用講座Ⅱ)

日時 10月7日(木)～10月28日(木) 初回のみ18時30分～20時、2回目からは18時30分～20時30分 全4回 日程変更

受講者 延べ74人 受講登録20人

内容 ワード中級者対象講座。ワードを使った実用的な文書作成や図形作成、差し込み印刷など応用的なスキルを学んだ。

e はじめよう! Excel(パソコン実用講座Ⅲ)

日時 11月4日(木)～11月25日(木)18時30分～20時30分 全4回

受講者 延べ67人 受講登録20人

内容 エクセル初心者対象講座。データ入力、編集やセルの入力方法などの基礎的な操作を理解し、表の作成からグラフ作成を学んだ。

f いわきの考古学講座(いわき再発見講座)(共催 考古資料館)

日時 11月27日(土)～3月26日(土)13時30分～15時 全5回 2月26日(土)、3月26日(土)は4月16日(土)、同23日(土)に延期

受講者 3回実施 延べ145人 受講登録60人

内容 中田装飾横穴や玉山古墳が造られたいわきの古墳時代について学び、いわき市の歴史を学んだ。外部研究者及び当財団職員が講師を務めた。

g Excelステップアップ(パソコン実用講座Ⅳ)

日時 2月3日(木)～同24日(木)18時30分～20時30分を4月4日(月)～同25日(月)へ延期 全4回

受講登録20人

h Excel上級講座(パソコン実用講座Ⅴ)

日時 3月3日(木)～同24日(木)18時30分～20時30分を4月7日(木)～同28日(木)へ延期 全4回

受講登録20人

(イ) 市民ニーズの高い講座

a パソコンはじめの一步 (IT入門講座)

日 時 6月3日(木)～6月24日(木)18時30分～20時 全4回 日程変更

受講者 延べ60人 受講登録19人

内 容 パソコン初心者対象講座。パソコンの電源の入れ方から電子メール・インターネットの使い方まで、基本操作を学んだ。

b 自分だけの器をつくる (陶芸入門講座)

日 時 6月22日(火)～8月2日(月)18時30分～20時30分 全5回

受講者 延べ53人 受講登録11人

内 容 陶芸家の秤屋苑子先生を講師に迎え、創作する喜びを深めながら陶芸の基本技術を学び、自分だけの器を作った。

c 七宝でつくるアクセサリー1 (ものづくり講座①)

日 時 7月3日(土)、同17日(土)10時～12時 全2回

受講者 延べ22人 受講登録12人

内 容 古川栄子先生を講師に迎え、七宝焼きの基本技法を学び、ブローチやペンダントなどのオリジナルアクセサリーを制作した。

d 七宝でつくるアクセサリー2 (ものづくり講座②)

日 時 1月15日(土)、同22日(土)10時～12時 全2回

受講者 延べ22人 受講登録12人

内 容 古川栄子先生を講師に迎え、七宝焼きの基本技法やプリントの仕方を学び、ブローチやペンダントなどのオリジナルアクセサリーを製作した。

e 四季を生ける (華道入門講座)

日 時 6月12日(土)～3月12日(土)14時～16時 全4回 3月12日(土)は4月16日(土)に延期

受講者 3回実施 32人 受講登録13人

内 容 池坊の橋本博子先生を講師に迎え、生け花の基本と草花や器に関する基礎知識を学んだ。

f 編み物入門講座 (ものづくり講座②)

日 時 10月9日(土)～10月30日(土)10時～12時 全4回

受講者 延べ51人 受講登録18人

内 容 クラフトパークの杉山美智子先生を講師に迎え、かぎ針編みの基本である針の持ち方や糸のかけ方から学び、お花座布団を製作した。

g 茶道への誘い (茶道入門講座)

日 時 10月15日(金)～12月3日(金)18時30分～20時30分 全8回 日程変更

受講者 延べ46人 受講登録6人

内 容 (一社)裏千家淡交会いわき支部の鈴木宗恵先生を講師に迎え、お点前の技術、茶道具の扱い方、所作を学び、おもてなしの心に触れながらお茶を点てることを楽しんだ。

h 英語で話そう! (外国語入門講座Ⅰ)

日 時 6月17日(木)～7月22日(木) 初回は18時30分～20時、2回目からは18時30分～20時30分 全6回、

受講者 延べ34人 受講登録7人

内 容 いわき市外国語指導助手のチャーリー・ブラウン先生を講師に迎え、簡単な英会話のコミュニケーションを体感し、国際理解を深めた。

i 中国語で旅してみよう! (外国語入門講座Ⅱ)

日 時 11月11日(木)～12月16日(木)18時30分～20時30分 全6回 日程変更

受講者 延べ73人 受講登録16人

内 容 東日本国際大学の許桂芹先生を講師に迎え、簡単な中国語を学ぶとともに、文化や習慣についても学び、中国や東アジア諸国についての国際理解を深めた。

j 楽しく!美BODY (健康体力づくり講座①)

日 時 11月19日(金)～12月17日(金)19時30分～21時30分 全5回 日程変更

受講者 延べ37人 受講登録10人

内 容 吉田美保先生を講師に迎え、ストレッチ・ヨガ・ピラティス等を楽しみながら体験し、美しい姿勢・身体作りを学んだ。

k 楽しく!美BODYⅡ (健康体力づくり講座②)

日 時 10月15日(金)～11月12日(金)19時30分～21時30分 全5回 日程変更

受講者 延べ39人 受講登録10人

内 容 吉田美保先生を講師に迎え、ストレッチ・ヨガ・ピラティス等を楽しみながら体験し、美しい姿勢・身体作りを学んだ。

(ウ) 人材養成に関する講座

めざせ、街の歴史案内人～平編～ (地域サポーター養成講座)

日 時 1月22日(土)10時～12時 6回のうち1回実施 1月29日(土)、2月5日(土)は4月9日(土)、同16日(土)に延期 第4～6回は中止

- 受講者 16人 受講登録20人
 内容 磐城平城とその周辺の歴史を学んだ。
- (エ) 親子・異世代間交流に関する講座
- a 親子でつくる自分だけの器1 A・B (親子陶芸講座①)
 日時 7月10日(土) A 10時～12時、B 14時～16時
 受講者 A 10組25人 受講登録同数、B 10組24人 受講登録10組22人
 内容 大堀相馬焼春山窯窯元の小野田利治先生を講師に迎え、親子で楽しく陶芸を体験し、世界でひとつだけのオリジナルの器を作り上げた。
- b 親子でつくる自分だけの器2 A・B (親子陶芸講座②)
 日時 11月6日(土) A 10時～12時、B 14時～16時
 受講者 A 9組18人 受講登録同数、B 5組11人 受講登録同数
 内容 大堀相馬焼春山窯窯元の小野田利治先生を講師に迎え、親子で楽しく陶芸を体験し、世界でひとつだけのオリジナルの器を作り上げた。
- c 親子レザークラフト (親子ものづくり講座①)
 日時 6月12日(土)～6月19日(土)10時～12時 全2回
 受講者 延べ12組26人 受講登録6組14人
 内容 土屋裕子先生(四倉高校)を講師に迎え、キーケースや小物入れなどを作った。革特有の感触やにおいを楽しみながら作業できた。
- d 親子プラモデル講座 (親子ものづくり講座②)
 日時 12月5日(日)、同12日(日)10時～12時
 受講者 延べ3組6人 受講登録3組6人
 内容 基本的な組み立て方や塗装の仕方を学び、プラモデルを作成した。
- e ロボットプログラミング教室1 (科学実験講座①)
 日時 7月24日(土)～11月20日(土)10時～12時 全3回 日程変更
 受講者 延べ22人 受講登録8人
 内容 第1級無線技術士小林克雄先生を講師に迎え、ロボットカーの仕組みとパソコンを用いて簡単なプログラミングを作成し、入力されたロボットカーを実際に動かして楽しんだ。
- f ロボットプログラミング教室2 (科学実験講座②)
 日時 3月5日(土)～同19日(土)10時～12時を4月9日(土)～同30日(土)へ延期 全3回
 受講登録4人
- (オ) IT相談会 (市民講師活用)
 日時 4月13日(火)～1月11日(火)14時～16時 24回のうち13回実施 5月、8月、9月、1月25日(火)、2月、3月は中止
 受講者 13回実施 計29人
 内容 パソコン初心者・高齢者を対象に、インターネットやワード、エクセルなどのITに関する相談・質問にボランティアスタッフが対応した。
- (カ) ITボランティアリーダー企画講座
- a DVD StylerでDVDをつくろう (ITボランティア企画講座①)
 日時 6月13日(日)10時～12時30分 日程変更
 受講者 15人 受講登録20人
 内容 フリーソフト「DVD Styler」を使い、撮影した動画をDVDプレーヤーで再生できる方法を学んだ。
- b Scratch操作講座 (ITボランティア企画講座②)
 日時 6月27日(日)10時～12時30分
 受講者 10人 受講登録同数
 内容 プログラミング言語「Scratch」を使い、画面上でスプライトを動かすプログラムについて学んだ。
- c Excel操作応用講座 (ITボランティア企画講座③)
 日時 7月18日(日)10時～12時30分
 受講者 17人 受講登録20人
 内容 実践的な表の作成や関数を使用した文字列の操作方法を学びながら、請求書を作成した。
- d 親子でペアバッグ作り (ITボランティア企画講座④)
 日時 10月17日(日)10時～12時30分 日程変更
 受講者 8組18人 受講登録10組20人
 内容 ワードを用いて画像を編集し、アイロンプリントでオリジナルのペアバッグを作った。
- e Power Point講座 (ITボランティア企画講座⑤)
 日時 11月14日(日)10時～12時30分 日程変更
 受講者 15人 受講登録20人
 内容 プレゼンテーションソフト「パワーポイント」を用いて、文字入力や図形操作、グラフの入力等の基本的な操作を学んだ。

- f PDF作成編集講座 (ITボランティア企画講座⑥)
 日 時 10月31日(日)10時～12時30分
 受講者 17人 受講登録20人
 内 容 ウェブの検索や各種アプリの使い方、グーグルマップの見方など、実用的な内容を学び理解することができた。
- g 年賀状作成講座 (ITボランティア企画講座⑦)
 日 時 11月28日(日)10時～12時30分
 受講者 12人 受講登録15人
 内 容 「筆まめ」のソフトを使用し、筆まめの使い方やイラストの挿入方法、宛名作成を学び、オリジナルの年賀状を作成した。
- h 親子でラベル作成講座 (ITボランティアリーダー企画講座⑧)
 日 時 12月19日(日)10時～12時30分
 受講者 9組25人 受講登録10組28人
 内 容 好きなイラストや画像を使用してオリジナルのラベルシールを作成した。また、親子の写真をアレンジしてカレンダーや名前シールを作成し、親子で楽しく素敵な作品を作りあげることができた。
- i Word操作応用講座 (ITボランティアリーダー企画講座⑨)
 日 時 1月30日(日)10時～12時30分 中止
- j Google便利技講座 (ITボランティアリーダー企画講座⑩)
 日 時 2月27日(日)10時～12時30分 中止
- (キ) 子育て支援ボランティア活用事業
- a プラザおはなし会
 日 時 4月9日(金)～1月14日(金)11時～11時30分 全12回 5月、8月、9月、2月、3月は中止
 受講者 7回実施 計29人 保護者10人とこども19人
 内 容 5階「遊びと憩いの広場」で実施し、紙芝居と絵本の読み聞かせ、パネルシアターや簡単な手遊び・歌を親子で楽しんだ。
- b かわいい「どうぶつのシーソー」をつくろう (子育てボランティア企画講座①)
 日 時 6月5日(土)10時30分～12時 日程変更
 受講者 1組2人 受講登録2組5人
 内 容 厚紙に描かれた動物の絵に色を塗り、紙皿やのり等を使ってシーソーのおもちゃを作って親子で楽しんだ。
- c キラキラ「カプセル・ボールすくい」 (子育てボランティア企画講座②)
 日 時 7月17日(土)10時30分～12時
 受講者 10組24人 受講登録11組26人
 内 容 カプセル・ボールと輪ゴム等を使い、きらきら光るおもちゃを作り、プールに浮かべて作ったポイですくって楽しんだ。
- d あかちゃんといっしょに「わらべうた あそび」 (子育てボランティア企画講座③)
 日 時 10月23日(土)10時30分～12時 日程変更
 受講者 4組12人 受講登録3組7人
 内 容 歌に合わせて、子供と触れ合いながら、手遊びをして楽しんだ。
- e クリスマス「パーティー・テーブル」 (子育てボランティア企画講座④)
 日 時 11月27日(土)10時30分～12時
 受講者 7組20人 受講登録8組20人
 内 容 段ボールで作ったテーブルに、折り紙やマスキングテープで飾り付けをして、クリスマスのパーティー・テーブルを親子で楽しみながら作った。
- f おもしろ「とんとんずもう」 (子育てボランティア企画講座⑤)
 日 時 1月22日(土)10時30分～12時 中止
- g かんたん「たのしい けんだま」 (子育てボランティア企画講座⑥)
 日 時 2月19日(土)10時30分～12時 中止
- (ク) サークル企画講座 (自主事業)
- a 朗読教室1 (一般体験講座①)
 日 時 5月12日(水)～7月28日(水)18時30分～20時 6回のうち4回実施 5月は中止
 受講者 延べ19人 受講登録6人
 内 容 いわき絵本と朗読の会の指導を受けながら、三島由紀夫作「潮騒」を味わい、朗読のコツを身につけた。
- b 楽しい朗読1 (一般体験講座②)
 日 時 5月14日(金)～7月30日(金)13時30分～15時 6回のうち4回実施 5月は中止
 受講者 延べ52人 受講登録16人
 内 容 いわき絵本と朗読の会の指導を受けながら、三島由紀夫作「潮騒」を味わい、朗読のコ

ツを身につけた。

c 朗読教室 2 (一般体験講座③)

日 時 9月8日(水)～11月24日(水)18時30分～20時 6回のうち4回実施 9月は中止

受講者 延べ18人 受講登録5人

内 容 いわき絵本と朗読の会の指導を受けながら、堀辰雄作「風立ちぬ」を味わい、朗読のコツを身につけた。

d 楽しい朗読 2 (一般体験講座④)

日 時 9月10日(金)～11月26日(金)13時30分～15時 6回のうち4回実施 9月は中止

受講者 延べ38人 受講登録12人

内 容 いわき絵本と朗読の会の指導を受けながら、堀辰雄作「風立ちぬ」を味わい、朗読のコツを身につけた。

e 俳句体験 (一般体験講座⑤)

日 時 6月18日(金)10時～12時 中止

f スクラッチで音楽を作ろう! (一般体験講座⑥)

日 時 10月24日(日)13時～16時

受講者 8人 受講登録9人

内 容 いわきラズベリーパイクラブの指導を受けながら、プログラミング言語「Scratch」を使い、画面上でスプライトを動かすプログラムについて学んだ。

g 朗読教室 3 (一般体験講座⑦)

日 時 1月12日(水)18時30分～20時 6回のうち1回実施 第2～6回は中止

受講者 7人 受講登録8人

内 容 いわき絵本と朗読の会の指導を受けながら、黒柳徹子作「窓ぎわのトットちゃん」を味わい、朗読のコツを身につけた。

h 楽しい朗読 3 (一般体験講座⑧)

日 時 1月14日(金)13時30分～15時 6回のうち1回実施 第2～6回は中止

受講者 18人 受講登録19人

内 容 いわき絵本と朗読の会の指導を受けながら、黒柳徹子作「窓ぎわのトットちゃん」を味わい、朗読のコツを身につけた。

(ケ) その他の自主事業

a 七夕飾り

期 間 7月7日(水)～8月8日(日)

参加者 133人

内 容 5階市民ロビーに笹竹を2本設置し、来館者の願いを込めた短冊を市民と協働して飾りつけた。

b 雑誌リサイクル会

日 時 7月18日(日)13時～14時

参加者 12人

内 容 5階情報コーナーの約1年分の雑誌等の、無料リサイクル会を開催した。

c クリスマスディスプレイ

期 間 12月5日(日)～12月25日(土)

内 容 来館者にクリスマスを身近に感じ、楽しむことができるように「遊びと憩いの広場」の一角にクリスマス飾りをつけ、5階市民ロビーにはクリスマスツリーを設置した。

(コ) 共催事業

a ふだん着のお茶会 1

日 時 6月12日(土)10時～15時 中止

b ふだん着のお茶会 2

日 時 11月13日(土)10時～15時 中止

c 第52回諸流いけばな展

日 時 1月29日(土)～1月30日(日)10時～17時 中止

(サ) 全市的な事業

第17回「生涯学習フェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を考慮し、開催を中止した。

全市的な事業として広く市民に浸透している「いわきヒューマンカレッジ(市民大学)」は、「ヘルスサイエンス学部」「コミュニティ福祉学部」「SDGs探究学部」「いわき学部」の4学部を開設し、156人の入学者があった。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により各学部とも定員を50人に絞ったが、ほぼ前年通りの受講者数となり、市民の学習ニーズにあった学部を開講できた。また、福島大学との連携・協力による特別講座を2回実施した。童門冬二学長による学長講演は、修了式において「渋沢栄一は何を目指したのか」との演題で事前収録映像を上映した。なお、学長講演及び「いわき学部」の一部講座については「i Tube(いわき市公式動画チャンネル)」上での視聴を可能とした。

「いわきヒューマンカレッジ（市民大学）」の運営や講座の実施にあたっては、「いわき市生涯学習支援ボランティアの会」の支援により円滑に運営することができた。

- a 第17回生涯学習フェスティバル
 - (a) 第1回実行委員会
月 日 9月15日(水) 第1回利用者懇談会終了後に実施を予定していたが、同懇談会を資料送付による書面開催とした。
 - (b) 第2回実行委員会
月 日 1月24日(月) 中止
 - (c) 第17回生涯学習フェスティバル
期 間 2月19日(土)～2月20日(日) 中止
- b いわきヒューマンカレッジ（市民大学）
 - (a) 第50回理事会
日 時 5月28日(金) 書面開催
内 容 令和3年度いわきヒューマンカレッジについて。
 - (b) 入学式・学長講演
日 時 8月21日(土)13時～15時 いわき産業創造館で実施予定だったが、中止。学長講演は修了式時に実施。
 - (c) ヘルスサイエンス学部（会場 生涯学習プラザ）
日 時 10月2日(土)～11月13日(土)14時～16時 全7回 日程変更
受講者 延べ226人 受講登録46人
内 容 「健やか生活」をテーマに体の仕組み、感染症と生体防御、薬の飲み方・飲ませ方、長寿のための健康生活など健康にまつわる知識を学んだ。
 - (d) コミュニティ福祉学部（会場 生涯学習プラザ）
日 時 10月2日(土)～12月11日(土)10時～12時 全7回 日程変更
受講者 延べ185人 受講登録35人
内 容 「健康」「福祉」「地域」をキーワードに、いまこの「いわき」という場所でのいかによりよく暮らすことができるかについて学んだ。
 - (e) SDGs探究学部（会場 福島工業高等専門学校）
日 時 10月2日(土)～11月27日(土)14時～16時 全7回 日程変更
受講者 延べ146人 受講登録27人
内 容 持続可能な開発目標（SDGs）として、技術者倫理、上下水道、推進に向けた本校の取り組みや防災、廃炉ロボット開発、インフラ、再生可能エネルギーなどを学んだ。
 - (f) いわき学部（会場 生涯学習プラザ）
日 時 10月1日(金)～12月17日(金)14時～16時 全7回 日程変更
受講者 延べ252人 受講登録48人
内 容 かつての人々の営みをはじめ、戦争と生活、民俗と伝統芸能、産業の現在と将来展望などをもとに、いわきについて学んだ。史蹟探訪では、風船爆弾基地跡、北茨城市歴史民俗資料館（野口雨情記念館）、水戸市大串貝塚ふれあい公園（水戸市埋蔵文化財センター）、水戸城二の丸展示館・隅櫓などを見学した。
 - (g) 特別講座（会場 生涯学習プラザ）
日 時 11月13日(土)、12月26日(日)14時～16時 全2回
受講者 延べ85人 受講登録134人
内 容 福島大学との連携・協力による特別講座である。「映画と女性の関わり」「最新の観測データから示唆される現代宇宙論の最前線」について学んだ。
 - (h) 修了式（会場 いわき市文化センター）
日 時 1月15日(土)13時～15時
参加者 79人
内 容 修了式及び学長・各学部代表講師による講演会を実施した。
 - (i) 第51回理事会
日 程 2月中旬 資料送付による書面開催とした。
内 容 令和3年度の実施状況の報告、令和3年度ボランティアの活動状況について、令和4年度の実施計画案について。

イ 利用者懇談会

(ア) 第1回利用者懇談会

- 月 日 9月15日(水)（書面開催）
- 議 題 令和3年度の利用状況と事業概況について
いわき市生涯学習プラザへの要望等について

令和4年度 サークル企画「学校体験講座」・「一般体験講座」について
その他

(イ) 第2回利用者懇談会

月 日 1月24日(月) (書面開催)

議 題 令和4年度生涯学習プラザ社会教育関係団体登録について
令和4年度生涯学習プラザ団体ロッカー・倉庫使用団体登録について
「いわき市公共施設予約案内システム利用者登録申請」登録について
いわき市生涯学習プラザへの要望等について
サークル・団体会員募集について

ウ 生涯学習支援ボランティアの会

(ア) 第1回役員会

日 時 4月14日(水)13時30分～14時30分

出席役員 12人 5人欠席

議 題 令和3年度いわきヒューマンカレッジ、第17回生涯学習フェスティバル等における年間
活動計画案についての協議

(イ) 第2回役員会

日 時 5月19日(水)10時30分～12時 中止

(ウ) 第3回役員会

日 時 7月14日(水)10時30分～12時

出席役員 10人 7人欠席

議 題 いわきヒューマンカレッジ (市民大学) 入学式当日のスケジュールについて
いわきヒューマンカレッジ (市民大学) 入学式等の役割分担について
いわきヒューマンカレッジ (市民大学) 学部運営の役割分担について
ヒューマンカレッジ(市民大学)運営等支援依頼結果について
ヒューマンカレッジ運営等支援実行委員会等について
その他

(エ) 第4回役員会

日 時 11月10日(水)10時30分～12時を12月8日(水)13時30分～15時に延期

出席役員 13人 4人欠席

議 題 いわきヒューマンカレッジ (市民大学) 学部運営・支援総括
いわきヒューマンカレッジ (市民大学) 修了式・講演会役割分担について
第17回 生涯学習フェスティバルの支援について
その他

(オ) 第5回役員会

日 時 2月9日(水)13時30分～15時を3月9日(水)に延期

議 題 いわきヒューマンカレッジ (市民大学) について
令和4年度 いわき市生涯学習支援ボランティアの会総会について
機関誌「Voluntary Association」第19号について

(カ) 令和4年度会総会 (書面開催)

議 題 令和3年度 活動状況について
令和3年度 いわきヒューマンカレッジ (市民大学) について
令和3年度 収支決算について
令和3年度 収支決算監査報告について
令和4年度 活動方針 (案) について
令和4年度 事業計画 (案) について
令和4年度 収支予算 (案) について
その他

エ 情報発信

広報に関しては、年間事業案内のほか、講座・イベントごとの詳細な案内チラシを作成し、市内公共施設での配布のほか、ホームページや、フェイスブックなどのメディアで情報提供を行った。また、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(ア) ホームページ・講座案内チラシ・広報「いわき」・年間事業案内パンフレット

期 間 4月1日(水)～3月31日(水)

内 容 毎月、開講講座をホームページで案内するとともに、関係機関にチラシを配布、広報した。
生涯学習情報の収集、提供を図り、事業案内や市民からの問い合わせに積極的に活用した。

(イ) プラザだより第69号・第70号・第71号

期 間 9月1日(水)～3月29日(火)

内 容 各種講座の募集要項や、実施事業の報告などを掲載し、市内公共施設に配布するとともにホームページでも公開した。年3回発行し、情報をわかりやすく提供する手段として活用できた。

オ 情報収集・提供

いわきまなびあいバンク事業

期 間 4月1日(木)～3月31日(木)

内 容 市民講師、社会教育関係団体の情報データベースであるいわきまなびあいバンクの情報収集及び維持管理を行い、ホームページ上の情報を更新し、PDF版「いわきまなびあいバンク」を発行した。まなびあいバンクに登録する市民講師の新規募集及び現在登録情報を悉皆調査し、最新情報を提供した。

カ 相談

生涯学習に関する相談

期 間 4月1日(木)～3月31日(木)

件 数 講師・サークル紹介について 12件

内 容 生涯学習に関する相談を電話・窓口・メールなどで受け付け、対応した。

3 管理部 門（法人会計）

(1) 組織運営について

ア 組織運営

職員の退職等に伴う職員（事務職員）の定数補充のため、令和3年4月1日付で1名の職員を採用した。今後とも、退職状況を見極め、人事交流を図りながら、財団の持つ専門性の強化と、組織の活性化を図っていく。

イ 福利厚生

常勤職員に対して健康診断・人間ドックを実施し、診断結果によっては速やかな再検査等を指導し、職員の健康増進に努めた。

ウ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を周知、徹底するとともに、職場内での分散勤務等を行った。さらに各施設においては、消毒液や検温器を設置するとともに、利用者票への記入によって使用者間の感染拡大防止に努めた。

(2) 人材育成について

ア 基本研修

ふくしま自治研修センターによる各種研修に4名が参加した。また、いわき労働基準協会主催の安全関係講習等も活用し、職場の安全向上に努めた。

イ 自主研修制度

自主研修は2名が実施した。図書購入補助は、16名が専門書等の購入補助を申請した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響による研修機会の減少を補完するため、図書購入補助額を引き上げた。

ウ 研究紀要の刊行

『研究紀要』第19号を刊行した。職員の資質の向上と調査研究の成果を市民に還元することを目的とし、内容は、考古・民俗・文学・歴史の各分野から、9編の原稿を収録した。

(3) 情報発信について

財団ホームページに、財務諸表及び指定管理受託施設の事業計画や「出前講座」の募集等の情報を掲出した。また、「令和2年度年報」を刊行した。

学校の長期休暇期間中の各施設の事業については、共同でチラシを作製して市内の保育園・幼稚園・小学校及び社会教育施設等に配布することで、参加者増に努めた。

また、指定管理8施設の事業及び一年間の催し物を掲載した「事業のご案内」リーフレットを初めて作成し、各施設の利用者へ配布し、周知を図った。

(4) 啓発事業について

出前講座は、5団体(公民館4、小学校1)5講座の依頼があったが、うち4講座は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。実施した1講座の受講者数は25人であった。

「たからものずかん」は、事務局調査係が編集を担当した第9巻『いわきの古墳時代Ⅱ－横穴編－』を刊行し、小学校や各種施設に配布するとともに、来館者等への解説に使用した。また、第5巻『いわきの文学者』を増刷した。

Ⅲ 評議員会・理事会に関する事項

1 評議員会

区分	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
臨時 書面決議	第1号 第2号	理事の選任について 監事の選任について	令和3年4月14日	令和3年4月14日
定時	第1号	令和2年度決算の承認について	令和3年6月28日	令和3年6月28日
臨時 書面決議	第1号	理事の選任について	令和3年10月12日	令和3年10月12日
臨時 書面決議	第1号 第2号	評議員の選任について 理事の選任について	令和4年3月29日	令和4年3月29日

2 理事会

区分	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
第1回 書面決議	第1号	令和3年度臨時評議員会の議案 第2号について	令和3年4月5日	令和3年4月5日
第2回 書面決議	第1号	副理事長の選定について	令和3年4月22日	令和3年4月22日
第3回	第1号 第2号	令和2年度決算の承認について 令和3年度定時評議員会の招集 について	令和3年6月4日	令和3年6月4日
第4回 書面決議	第1号 第2号	令和3年度臨時評議員会の招集 について 役員賠償責任保険契約について	令和3年10月11日	令和3年10月11日
第5回 書面決議	第1号	理事長の選定について	令和3年10月14日	令和3年10月14日
第6回 書面決議	第1号	給与等に関する規程及び定年退 職者の再雇用に関する規程の改正 について	令和3年11月30日	令和3年11月30日
第7回	第1号 第2号	専決処分の承認について(令和3 年7月8日専決第1号) 専決処分の承認について(令和3 年11月30日専決第2号)	令和3年12月24日	令和3年12月24日
第8回 書面決議	第1号	役員賠償責任保険契約について	令和4年2月14日	令和4年2月14日
第9回	第1号 第2号 第3号	給与等に関する規程の改正につ いて 令和4年度事業計画及び収支予 算について 令和4年度臨時評議員会の招集 について	令和4年3月23日	令和4年3月23日
第10回 書面決議	第1号	理事長の選定について	令和4年3月30日	令和4年3月30日

3 監査

区分	件名	開催年月日	会場
事前監査	令和2年度決算審査についての事前監査	令和3年5月14日	考古資料館
第43回 監事会	令和2年度決算審査について	令和3年5月20日	いわき市役所 財政部長室

4 役員等に関する事項

評議員7名、理事9名、監事3名（令和4年3月31日現在）

区分	年 月 日	役 職 名 ・ 氏 名	備 考
就 任	令和3年4月14日	理 事 水野 達雄	
	令和3年4月22日	副理事長 水野 達雄	
	令和3年10月12日	理 事 下山田松人	
	令和3年10月15日	理 事 長 下山田松人	
	令和4年3月29日	理 事 藤城 良教	
辞 任	令和3年10月14日	理 事 長 新妻 英正	
	令和4年3月31日	評 議 員 渡邊 一弘 評 議 員 高田 悟 理 事 長 下山田松人	

IV 職員に関する事項

令和4年3月31日現在

1 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区 分	事務局長 同相当職	次 長 同相当職	係 長 同相当職	主任職	係 員	嘱託職員	補助職員	計
事務局	1	1	—	—	—	—	—	2
企画管理係	—	1	—	2	—	—	1	4
調査係	—	—	1	3	1	3	14	22
計	1	2	1	5	1	3	15	28

2 施 設

区 分	館 長 所 長	次 長 同相当職	係 長 同相当職	主任職	係 員	嘱託職員	補助職員	計
文学館	1	1	—	2	1	—	3	8
伝承郷	1	1	—	1	1	—	3	7
勿来関 文学歴史館	1	—	—	—	1	1	2	5
アンモナイト センター	1	—	—	1	—	1	3	6
考古資料館	(1)	—	1 (1)	(3)	(1)	—	2	3 (6)
いわき海浜 自然の家	1	1	3	2	—	1	9	17
生涯学習 プラザ	1	1	1	1	1	—	6	11
計	6 (1)	4	5 (1)	7 (3)	4 (1)	3	28	57 (6)

合 計	7 (1)	6	6 (1)	12 (3)	5 (1)	6	43	85 (6)
-----	----------	---	----------	-----------	----------	---	----	-----------

前 年 度 合 計	8	7	5 (3)	11 (3)	6 (1)	4	43	84 (7)
--------------	---	---	----------	-----------	----------	---	----	-----------

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	39
2 正味財産増減計算書	40
3 財務諸表に対する注記	43
4 財産目録	45

貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	249,574,021	246,490,566	3,083,455
未収金	9,720,520	12,011,249	△2,290,729
前払金	210,280	9,434	200,846
立替金	0	58,596	△58,596
仮払金	0	0	0
未経過通信運搬費	1,806	1,220	586
未経過租税公課	1,600	0	1,600
流動資産合計	259,508,227	258,571,065	937,162
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他固定資産			
器具・備品	13	13	0
リース資産	33,561,000	44,748,000	△11,187,000
電話加入権	9,000	9,000	0
その他固定資産合計	33,570,013	44,757,013	△11,187,000
固定資産合計	43,570,013	54,757,013	△11,187,000
資産合計	303,078,240	313,328,078	△10,249,838
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	69,313,884	83,140,362	△13,826,478
未払消費税	13,613,200	9,562,900	4,050,300
前受金	7,750	7,612,000	△7,604,250
預り金	1,232,786	1,440,224	△207,438
賞与引当金	13,126,993	13,340,789	△213,796
短期リース債務	11,179,347	10,890,642	288,705
流動負債合計	108,473,960	125,986,917	△17,512,957
2 固定負債			
長期リース債務	23,255,620	34,434,967	△11,179,347
固定負債合計	23,255,620	34,434,967	△11,179,347
負債合計	131,729,580	160,421,884	△28,692,304
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	161,348,660	142,906,194	18,442,466
正味財産合計	171,348,660	152,906,194	18,442,466
負債及び正味財産合計	303,078,240	313,328,078	△10,249,838

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益 (A)	200	1,002	△802
基本財産受取利息	200	1,002	△802
② 事業収益 (B)	626,447,500	633,639,622	△7,192,122
文化財調査受託料	155,347,500	169,944,500	△14,597,000
施設指定管理料	463,719,000	455,031,000	8,688,000
1 市立草野心平記念文学館	76,393,000	76,053,000	340,000
2 市草野心平生家	3,254,000	3,254,000	0
3 市暮らしの伝承郷	51,235,000	51,056,000	179,000
4 市勿来関文学歴史館	35,798,000	35,798,000	0
5 市アンモナイトセンター	26,407,000	26,147,000	260,000
6 市考古資料館	17,446,000	17,145,000	301,000
7 県いわき海浜自然の家(県)	156,283,000	149,482,000	6,801,000
8 市生涯学習プラザ	96,903,000	96,096,000	807,000
施設事業受託料	6,643,420	8,182,812	△1,539,392
1 いわきヒューマンカレッジ	3,500,000	3,418,000	82,000
2 未来キッズ生き生き事業	2,491,618	3,214,552	△722,934
3 勿来関公園体験学習施設管理事業	327,800	287,895	39,905
4 心のケアが必要な子ども対象事業	324,002	634,268	△310,266
5 プラザアンケート調査事業	0	628,097	△628,097
施設利用料	726,980	457,140	269,840
出版物頒布料	10,600	24,170	△13,570
③ 受取負担金 (C)	0	0	0
講師派遣料	0	0	0
④ 受取寄附金 (D)	0	0	0
寄附金	0	0	0
⑤ 雑収益 (E)	488,311	1,479,052	△990,741
受取利息	3,199	3,408	△209
雑収益	485,112	1,475,644	△990,532
経常収益計 (A~E)=(F)	626,936,011	635,119,676	△8,183,665
(2) 経常費用			
① 事業費 (G)	563,540,050	579,899,558	△16,359,508
給料手当	109,941,156	114,495,767	△4,554,611

科 目	当年度	前年度	増減
賃金	141,084,625	141,230,311	△145,686
賞与引当金繰入額	10,864,553	11,016,823	△152,270
共済費	41,263,149	42,597,638	△1,334,489
報償費	4,455,454	6,069,623	△1,614,169
旅費	4,706,780	6,444,857	△1,738,077
消耗品費	13,421,206	21,047,163	△7,625,957
被服費	575,547	362,414	213,133
燃料費	5,840,259	4,504,789	1,335,470
食糧費	181,198	344,817	△163,619
印刷製本費	14,659,723	17,042,134	△2,382,411
光熱水費	24,835,353	24,119,429	715,924
修繕費	9,886,059	13,436,723	△3,550,664
医薬材料費	0	0	0
通信運搬費	6,282,384	6,125,838	156,546
広告料	768,659	542,559	226,100
手数料	1,568,445	1,422,898	145,547
保険料	820,402	920,902	△100,500
委託料	93,125,935	89,265,336	3,860,599
使用料及び賃借料	29,536,541	33,475,361	△3,938,820
工事請負費	855,580	1,631,253	△775,673
原材料費	300,551	960,621	△660,070
負担金	267,710	267,990	△280
公租公課	32,505,117	26,669,566	5,835,551
消耗什器備品費	3,549,590	3,379,421	170,169
減価償却費	11,187,000	11,187,000	0
支払利息	1,057,074	1,338,325	△281,251
② 管理費	44,953,495	42,961,881	1,991,614
報酬	265,600	257,300	8,300
給料手当	21,242,413	20,572,236	670,177
賃金	4,032,170	3,895,541	136,629
賞与引当金繰入額	2,262,440	2,323,966	△61,526
共済費	6,047,235	6,068,974	△21,739
報償費	138,000	146,000	△8,000
旅費	66,312	97,113	△30,801
交際費	75,000	10,000	65,000
消耗品費	751,681	867,768	△116,087
被服費	14,000	0	14,000
燃料費	33,481	34,606	△1,125

科 目		当年度	前年度	増減
食糧費		19,652	48,832	△29,180
印刷製本費		1,531,420	982,410	549,010
光熱水費		124,397	80,311	44,086
修繕費		0	608,000	△608,000
通信運搬費		314,929	268,771	46,158
広告料		0	88,000	△88,000
手数料		480,803	461,333	19,470
保険料		234,430	78,230	156,200
委託料		1,026,304	1,176,655	△150,351
使用料及び賃借料		1,039,273	638,111	401,162
原材料費		0	0	0
負担金		794,432	552,250	242,182
補償費		235,650	0	235,650
公租公課		3,964,933	3,705,474	259,459
消耗什器備品費		258,940	0	258,940
経常費用計	(G+H) = (I)	608,493,545	622,861,439	△14,367,894
当期経常増減額	(F-I) = (J)	18,442,466	12,258,237	6,184,229
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	(K)	0	0	0
(2) 経常外費用				
① 過年度損益修正損				
リース料修正損		0	0	0
電話加入権減損損失		0	0	0
経常外費用計	(L)	0	0	0
当期経常外増減額	(K-L) = (M)	0	0	0
当期一般正味財産増減額	J+M) = (N)	18,442,466	12,258,237	6,184,229
一般正味財産期首残高	(O)	142,906,194	130,647,957	12,258,237
一般正味財産期末残高	(N+O) = (P)	161,348,660	142,906,194	18,442,466
II 指定正味財産増減の部				
基本財産運用益		200	1,002	△802
一般正味財産への振替額		△200	△1,002	802
当期指定正味財産増減額	(Q)	0	0	0
指定正味財産期首残高	(R)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	(Q+R) = (S)	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高	(P+S)	171,348,660	152,906,194	18,442,466

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

平成26年度より公益法人会計基準（平成20年4月11日内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）

(2) 固定資産の減価償却方法

器具・備品 定率法

リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

(3) 引当金の計上基準

・退職給付引当金

期末在職者の退職金支給に備えるため、中小企業退職共済制度に加入しており、同制度による給付額と退職金要支給額が同額であるため、退職給付引当金は計上していない。

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、当期に帰属する期間の支給見込み額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引（所有権移転外ファイナンスリース）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

なお、重要性の乏しいリース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000円	0円	0円	10,000,000円
合 計	10,000,000円	0円	0円	10,000,000円

3 基本財産の財源等の内訳

基本財産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000円	(10,000,000円)	(0円)	—
合 計	10,000,000円	(10,000,000円)	(0円)	—

4 固定資産の取得価額、減価償却及び償却額累計額及び当期末残高及び減損損失

固定資産の取得価額、減価償却及び減損損失累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却及び 減損損失累計額	減価償却	当期末残高
器具・備品	7,541,762円	7,541,749円	0円	13円
リース資産	55,935,000円	11,187,000円	11,187,000円	33,561,000円
電話加入権	449,904円	440,904円	0円	9,000円
合 計	63,926,666円	19,169,653円	11,187,000円	33,570,013円

5 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	9,720,520円	0円	9,720,520円
合 計	9,720,520円	0円	9,720,520円

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益 基本財産受取利息	200円
合 計	200円

財 産 目 録

令和4年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	事務局、施設7か所	手許保管	246,000
郵便振替	ゆうちょ銀行	運転資金	161,066
預金	普通預金		
	東邦銀行湯本支店	運転資金	200,104,593
	東邦銀行湯本支店	運転資金	0
	東邦銀行湯本支店	運転資金	4,400
	いわき信用組合湯本支店	運転資金	8,288,045
	いわき信用組合湯本支店	運転資金	583,517
	大東銀行湯本支店	運転資金	87,899
	福島銀行湯本支店	運転資金	98,501
	大和ネクスト銀行お伊支店	運転資金	0
	定期預金		
	いわき信用組合湯本支店	運転準備資金	10,000,000
	大東銀行湯本支店	運転準備資金	10,000,000
	福島銀行湯本支店	運転準備資金	10,000,000
	大和ネクスト銀行お伊支店	運転準備資金	10,000,000
未収金	いわき市、福島県等	文化財調査受託料未収等	9,720,520
前払金	福島労働局	労働保険料概算払い	210,280
立替金			0
未経過通信運搬費	切手	在庫	1,806
未経過租税公課	印紙	在庫	1,600
流動資産合計			259,508,227
(固定資産)			
基本財産			
定期預金	東邦銀行湯本支店	市出捐金	10,000,000
その他固定資産			
器具・備品	カメラ等	公1事業目的保有財産	13
リース資産	パソコンインフォメーション機器	公2事業目的保有財産	33,561,000
電話加入権		公1・法人会計事業目的保有財産	9,000
固定資産合計			43,570,013
資産合計			303,078,240
(流動負債)			
未払金	人件費	日々雇用職員3月分賃金等	12,131,991
	物件費	業者に対する未払額	57,181,893
未払消費税	いわき税務署	3年度消費税	13,613,200
前受金	一般市民	図書頒布料	7,750
預り金	所得税、市県民税、社会保険料等		1,232,786
賞与引当金	職員		13,126,993
短期リース債務			11,179,347
流動負債合計			108,473,960
(固定負債)			
長期リース債務			23,255,620
固定負債合計			23,255,620
負債合計			131,729,580
正味財産			171,348,660